41043
教科書文庫
4
760
51-(下明)
2500
300/175

760 類
133 號
1

オルガン教科書

教授用

廣島縣師範學校藏書

縣第二十九号
和 樂
一部ノ冊數 一

廣島縣師範學校藏書
760 類
133 号
1
廣師學校藏書號
第 [illegible] 号
14150
縣第 [illegible] 号
和 [illegible] 樂
一部冊數 一

An Organ Text-Book

T. Tamura.

No. 1.

○本
編
惟
の
我
中
當
以
○本

緒　　言

○本書は、師範學校·女子師範學校·高等女學校の、オルガン教科用書に充てんが爲に、編纂したるものなり。

惟ふに、之を專門的に組織すれば、無味乾燥に流れて初學者に適せず。又、單に、歌曲のみを蒐集すれば、技術としてのオルガン奏法に通ぜしめんこと難し。これ、現時我中等教育に於て、此等兩種を折衷せる教科書の、要求ある所以ならずや。余、嘗て中等教育に從事し、夙に此憾あり。乏を東京音樂學校に受け、日々オルガン教授に當るに及びて、益此感を深くせり。仍ち不敏を顧みず、本書の編纂を企圖したる所以なり。

○本書の編纂につきて、特に用意せし諸點は、下の如し。

一. 本書の分量は、我中等教育に於ける音樂の程度と、其時間數とに鑑みて、適度ならんことを圖りたり。されど、技術に屬する本書の如きは、寧ろ其多きに據るを可とする故に、本書亦此考案に成れり。

二. 本書の材料は、概ね有名なる西洋曲(民歌•國歌•國風歌等)にして、特に我國士女の嗜好に適すべきものを選擇し、易より難に、簡より繁に進めて之を配列したり。而して、小學唱歌集中の曲節を、最も多く採れる所以は、唱歌教授との連絡に、便ならしめんが爲なり。

三. 本書は、之を分ちて四部門とし、第一部門には、五指練習及其應用曲を、第二部門には、二重音の歌調及其豫備的五指練習を配して、之を第一卷に收め、第三部門には、三重音及四重音の歌調、並に其豫備的練習を、第四部門には、進行曲及各種の音階練習を配して、之を第二卷に收めたり。かく分卷したるは、第三部門以上に進む能はざるものの便を圖りてなり。

四. 本書に採れる指使ひ法は、逆指に陷らぬ限り、なるべく平易なる方法に據れり。されど、第一部門は、五指練習を主とし、指使ひ法の基礎たるものなれば、本書に記載せる指使ひ法を、嚴密に遵守すべしと雖、他の部門にては、强いて之に拘泥せず、寧ろ譜表の位置と鍵盤との關係を、早く領得せんことを努むべし。

五. 此種の敎科書にして、既に刊行せるもの尠からざれども、其多くは、曲の原名と原作者とを記せざるが故に、初學の之に據るもの、奏して其曲想を解せず、彈じて其國風をも了せざるなり。余常に之を遺憾とす。此を以て本書には、勉めて曲の原名と原作者とを揭げ、稍困難なる原名には、其譯語をも附載したり。

六. 本書は、樂譜の明確にして鮮麗ならんことを期し、特に、板下を內田彌一氏に、彫刻を中山要太郎氏に托して、全部之を木板に上せたり。

○本書は、余が數年間苦心の餘に成れるものなれども、淺學菲才、加ふるに公務の多忙なるあり、自ら意に滿たざる所猶少からず、一に江湖諸士の補正を俟たんのみ。もし夫れ、本書に採るべき所あり、延いて斯道發達の一助たるを得ば、余の光榮之に過ぐるあらじ。

明治三十八年四月三日

編者識

オルガン奏法上一般の注意

○オルガンの奏法は、其各音の轉變を圓滑(Legato)ならしむるを以て要點とす。以下詳に其奏法を說かん。

一. 姿勢

○オルガンを奏するときは、殊に、姿勢の整正ならんことを要す。學習者は、常に下の諸點に省みて、各自、姿勢の矯正を計らざるべからず。

A. 各自體格の如何に應じて、オルガンと腰掛との間隙を適度に保つべし。

B. 體は卒直にし、決して腰背を曲ぐべからず。兩腕は、緩にして、體を離れざる樣注意すべし。

C. 手指は、下圖に示せるが如く、爪と鍵盤とをなるべく直角ならしめ、手首を手甲より下げざる樣運用すべし。

二. 踏板

○オルガンは、踏板の作用によりて風を起し、其風の舌笛を通過するによりて發音するものなれば、踏方の巧拙如何は、大に其音色に關聯するものなり。下に踏板使用の要點を列擧すべし。

A. 兩足を踏板の上に深く入れて、左右交互に踏むべし。(踵を踏板より離すことなくして、爪尖に力を込めよ。)

B. 踏板は、深く、大きく、且緩徐に使用するを常規とす。(但し、小形なる樂器に於ては、之を急に踏む要あるべし。)

C. 緩徐に大きく踏むときは、其音色優美艶麗なり。急速に小さく踏むときは、其音色粗暴亂雜なり。

D. 急速に踏むときは、踏板の摩擦によりて、忌むべき噪音を發し、終には風袋を破損するに至るべし。

E. 單一の音には、踏板を緩徐に大きく踏み、數音には、之を急速に大きく踏むを要す、音の重なる度、少き曲と、多き曲とを奏する場合も、亦之に準ず。

F. 踏板に兩足を載せながら腰掛を移動すべからず。踏板を破損する恐あり。而して踏板は增音器と密接の關係あり。下に之を述ぶべし。

三. 增 音 器

○增音器は、强弱記號ある歌曲を奏する場合にのみ、之を使用するものとす、强弱記號なき場合には、決して之を使用すべからず。而して、之を使用する場合には、下の心得を要す。

A. 弱音の場合には、增音器を用ひざるを通例とす。其場合には、踏板を極めて緩徐に踏み、ただ其踏加減のみにて、音を加減すべし。

B. 强音の場合には、增音器を開くと同時に、踏板を急速に使用するものとす。

C. 弱音より、漸次强音に移る場合には、徐々に增音器を開くと同時に、漸く踏板を急速に踏むべし。强音より漸次弱音に移る場合には、全くこれに反す。

D. 弱音より、急に强音に移るときは、增音器と踏板とを急速に使用し、又强音より急に弱音に移るときは、之と踏板とを急に止め、時には、暫時踏板を全く用ひざることあるべし。

E. 中弱、中强音の場合には、增音器を少しく開き、踏板の使用も緩徐なるべし。最强最弱音の場合も、之に準じて推知すべし。

四. ス ト ッ プ

○ストップ(音栓)は、オルガンの舌笛を閉塞せるものなり。されば、之を有するオルガ

ンは、必ず其中の幾つかを引出して奏するを要す。ストップの個數は、オルガンにより、少きは二個より、多きは二十數個に至り、樂器製造會社によりて、其排置一樣ならずとす。今、簡單に其一般用法を述ぶべし。

A. 二個乃至四個の場合には、悉く之を引出すべし。

B. 五個乃至七個の場合には、兩端の二個、若くは、兩端の四個を引出すべし。或は、兩端より第一位のものと第三位のものとの四個を引出すも可なり。

C. 八個以上の場合には、ストップの文字によりて、之を使用すべし。即ち、初學者は、通常、左方 Diapason. 右方 Melodia. の二個を引出し、一層音量を增大せしめんには、更に、左方 Viola. 右方 Flute. を加ふるものとす。

D. メーソンモデルの如く、ストップ中に、①②の番號を附したるものある場合は、①のみ二個を引出すか、又は①:② 四個を引出すべし。

E. Coupler. 並に朱書のストップは、通常の場合に之を使用せざるものとす。

F. 演奏を終りたるときは、必ずストップを押し入れ置くべし。然らざれば、オルガンの舌笛に塵埃の入る恐あり。

雜　　項

○以上の外、オルガン奏法上、竝に本書使用上につきて、心得べきこと多々あり。下に此等を一括して掲ぐべし。

イ. 踏板及增音器を使用するときは、なるべく噪音を發せしめざる樣注意すべし。

ロ. ストップは、各獨特の音色と、音量とを有するものなれば、高尙なる樂曲を奏するときは、演奏中に、之が抜き挿しをなし、以て、其樂曲に、種々の興味を與ふるものとす。

ハ. 手指の運用は、力めて圓滑靜和ならんことを要す。決して鍵盤を打つべからず。

ニ. 本書中掲載の五指練習曲は、始めは緩徐に、漸く急速に、幾回となく反復練習するを要す。

ホ. 五指轉換練習は、オルガン使用上、稍困難なるものとす。されば、力めてこれが練習を重ね、音を分離せしめざる樣注意すべし。

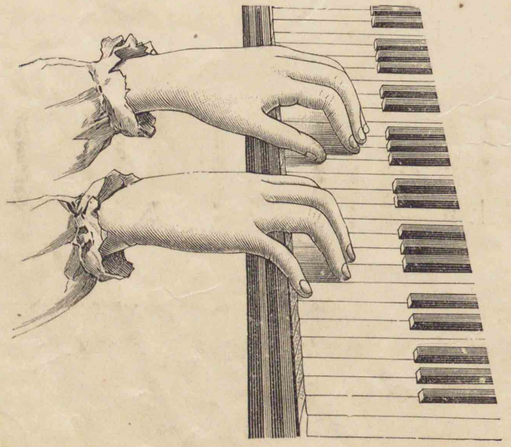
ヘ. 二個以上の音を出す場合は、同時に發音せしめ、且同時に音を止むべし。

ト. 發想記號は、其曲節の趣味を發揮せしむべきものなれば、決して之を輕々に看過すべからず。

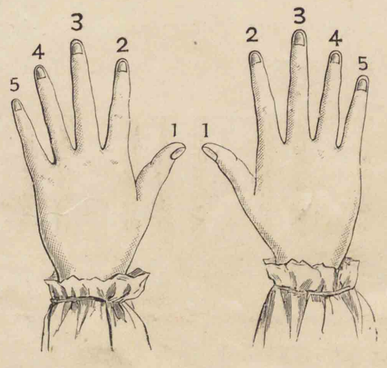
チ. 進行曲は、快活に奏すべきものなれば、左手の和音のみ、稍分離して奏することを許すものとす。

リ. 技術に屬する學科は、特に練習を必要とす。オルガン奏法に於ても亦然り、學習者は茲に深く鑑みて、反復練習を重ぬべきなり。

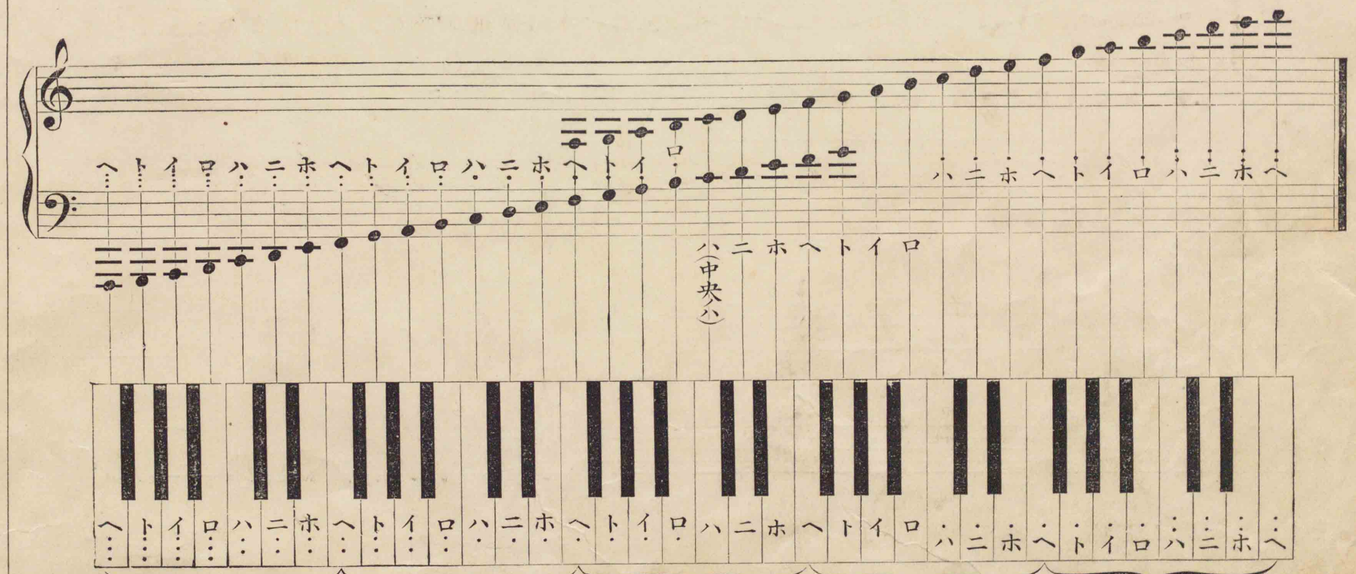
雙手の姿勢



五指の名稱



大譜表とオルガン鍵盤との對照



最低音部　低音部　基礎七音　高音部　最高音部

第　一　部　門

五指練習と其應用曲

踏板練習

Lento. (緩徐)

譜表と鍵盤との位置對照練習

右手練習

1.

2.

3.

4.

5.

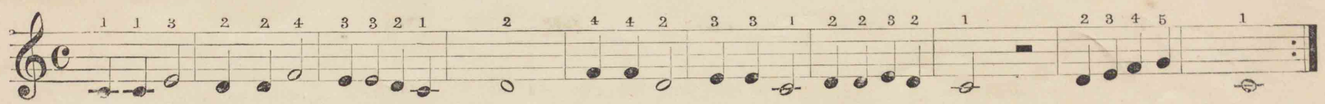
6.

7.

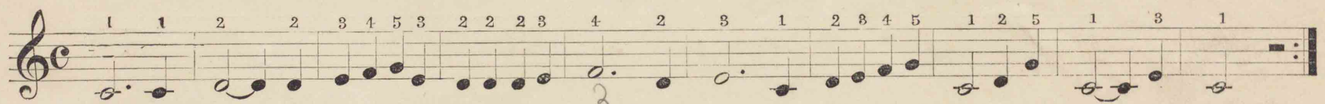
8.

Lent

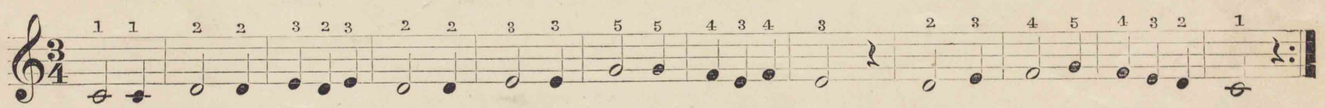
5.



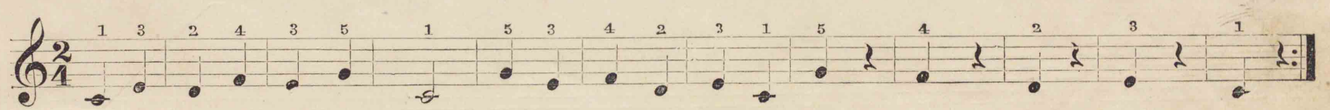
6.



7.



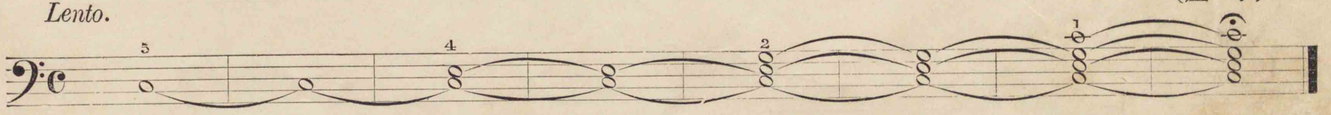
8.



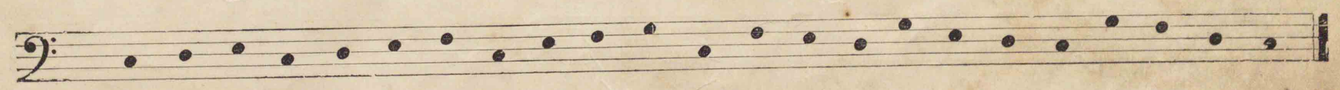
踏板練習

(左手)

Lento.

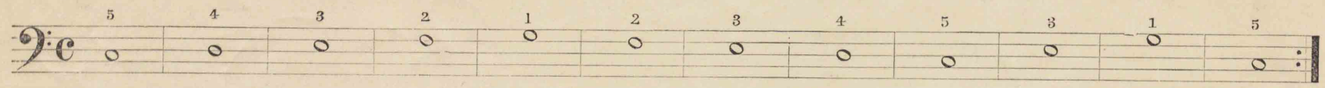


譜表と鍵盤との位置對照練習 (左手)

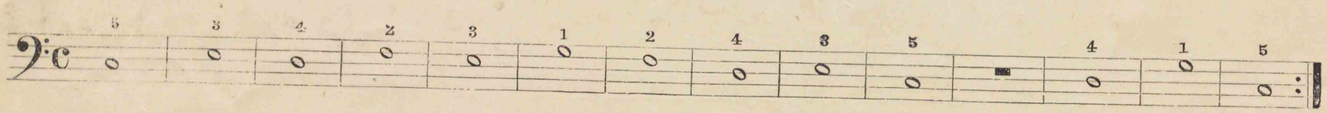


左手練習

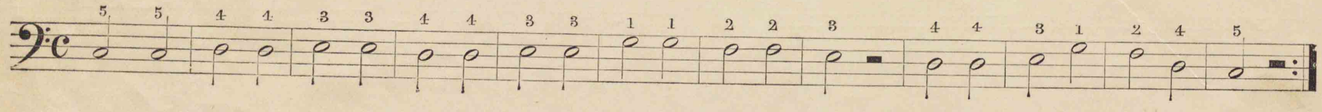
1.



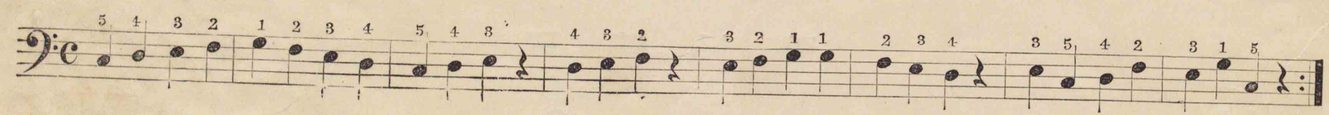
2.



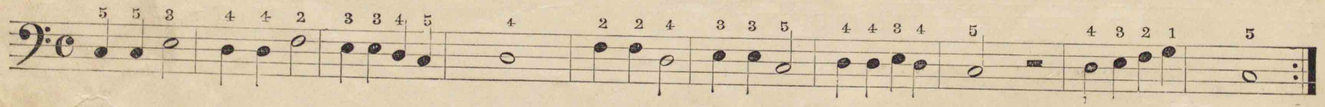
3.



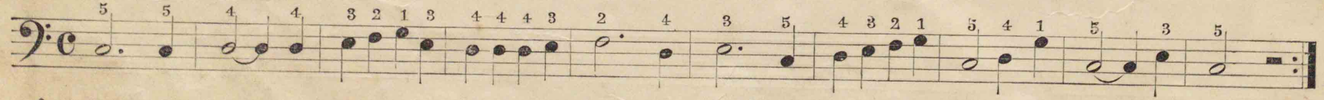
4.



5.



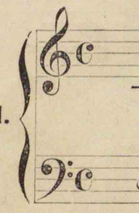
6.



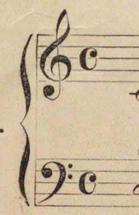
7.

8.

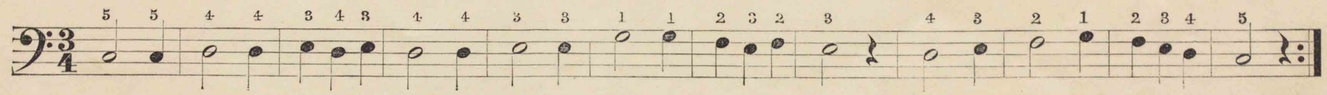
1.



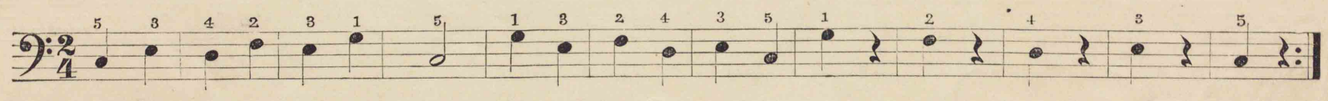
2.



7.



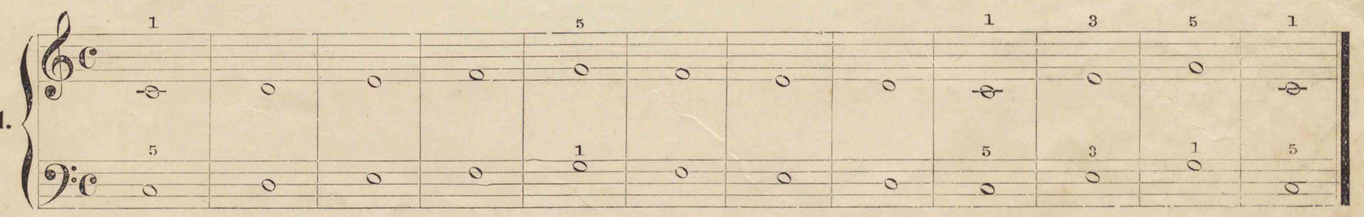
8.



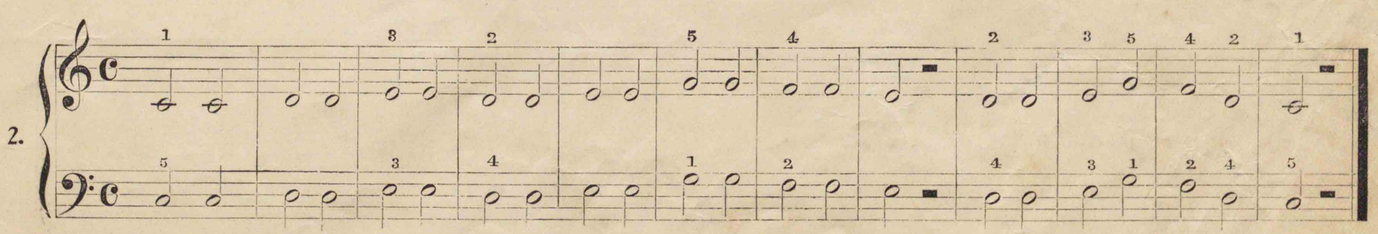
雙手單音練習

（八音より始まる練習）

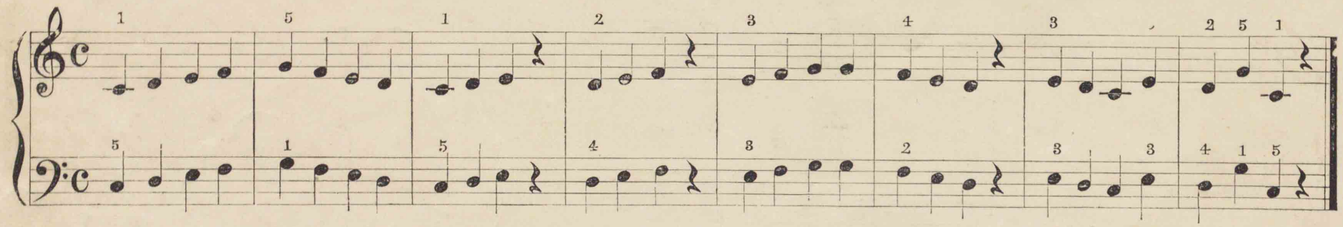
1.



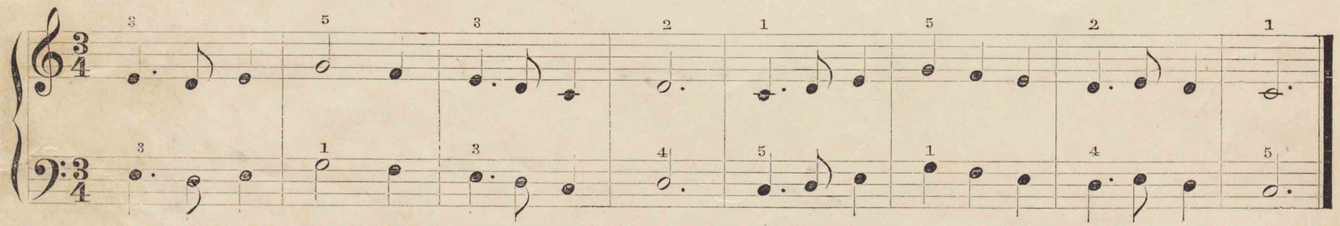
2.



3.

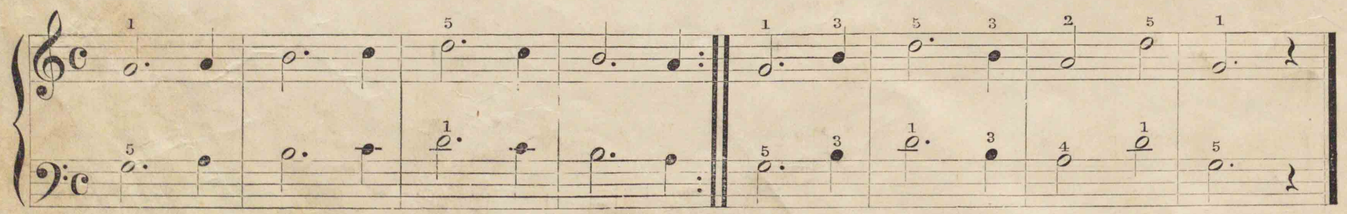


4.

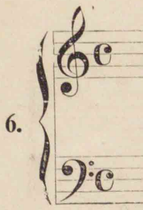


（卜音より始まる練習）

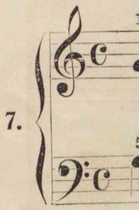
5.



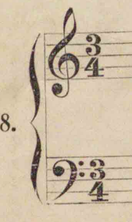
6.



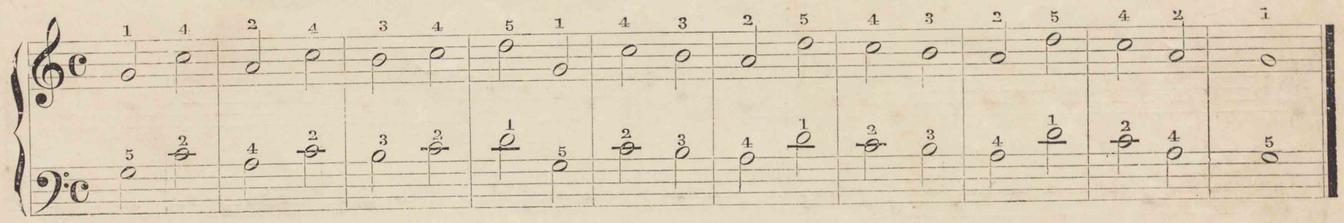
7.



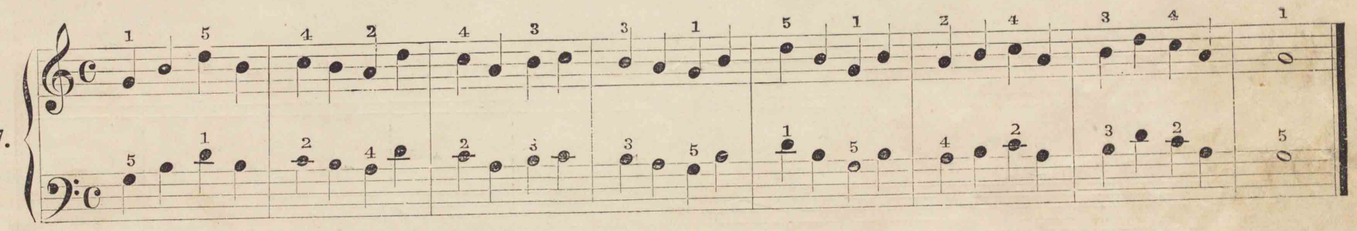
8.



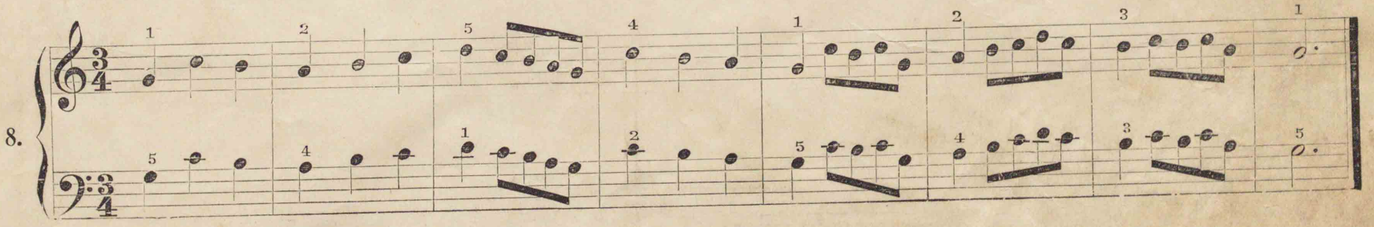
6.



7.

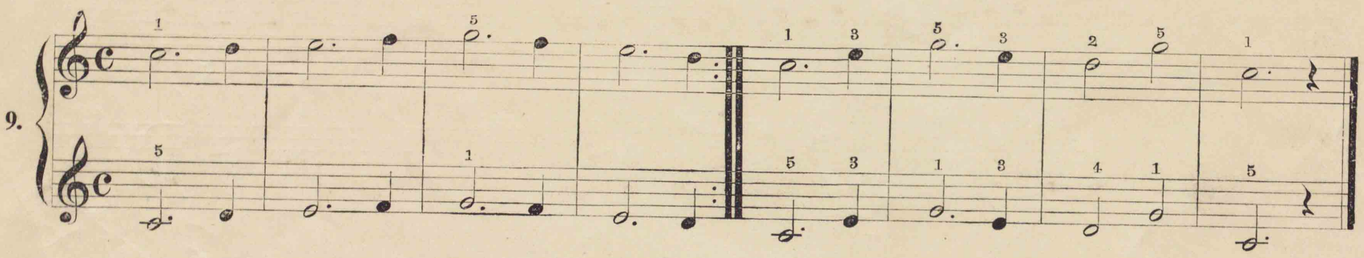


8.

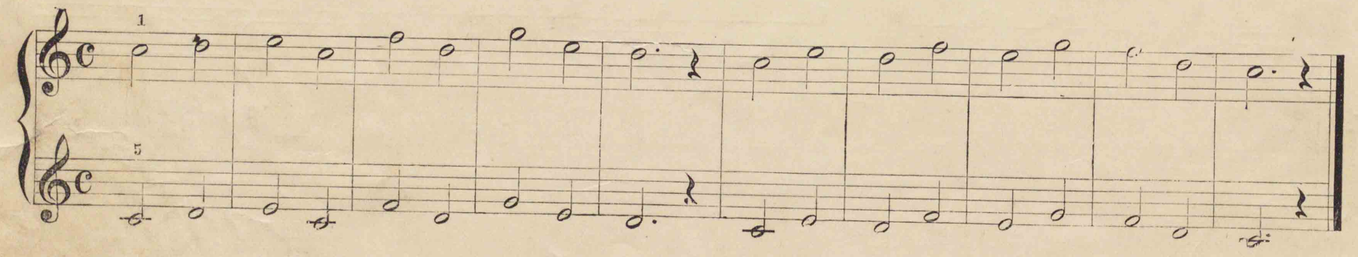


（上部ハ音より始まる練習）

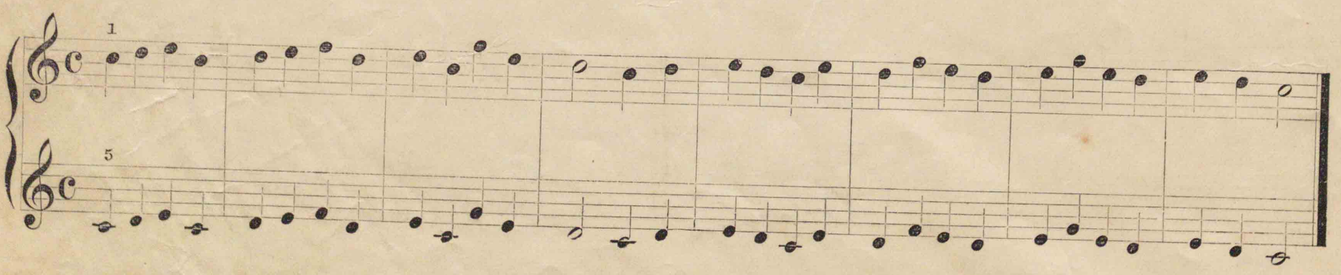
9.



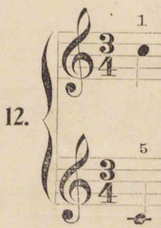
10.



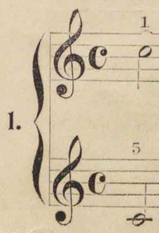
11.



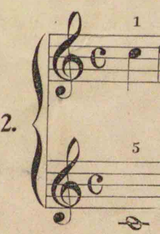
12.



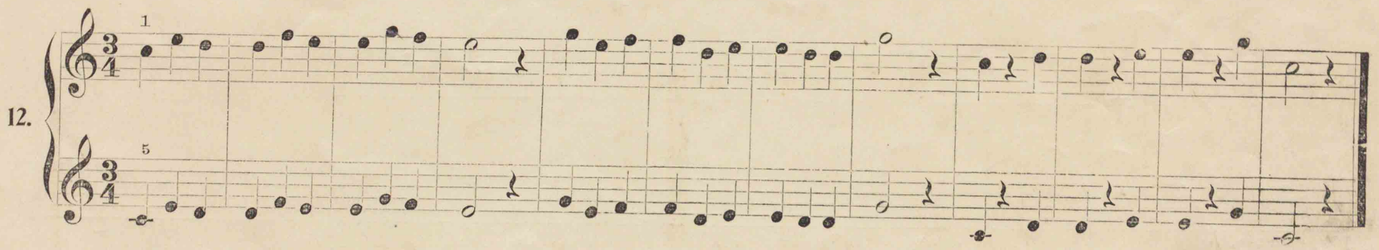
1.



2.

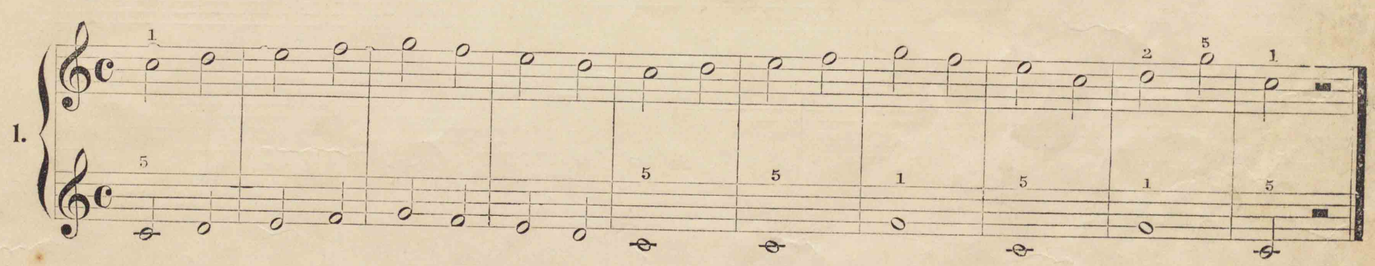


12.

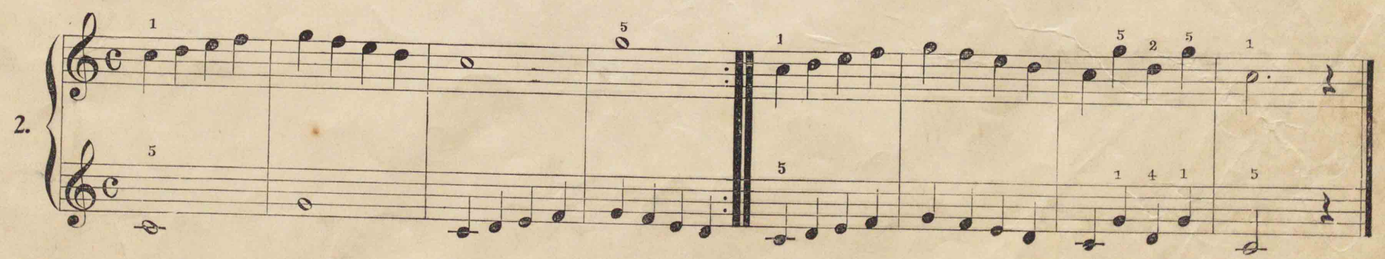


雙 手 複 音 練 習

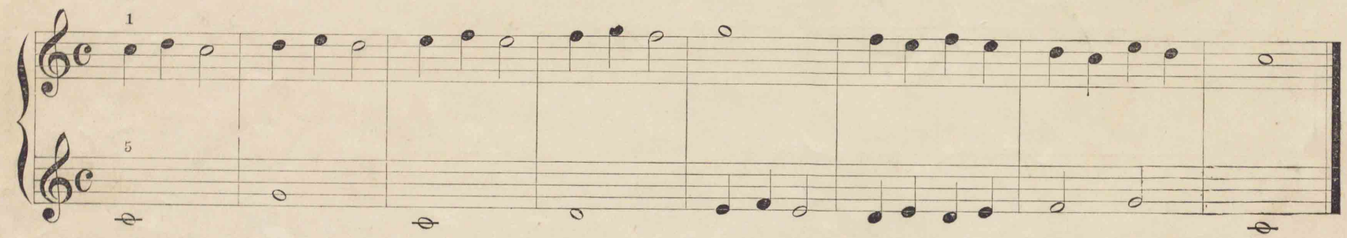
1.



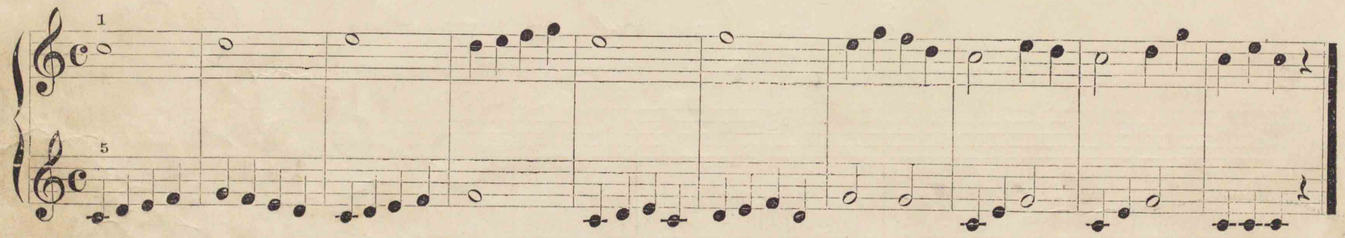
2.



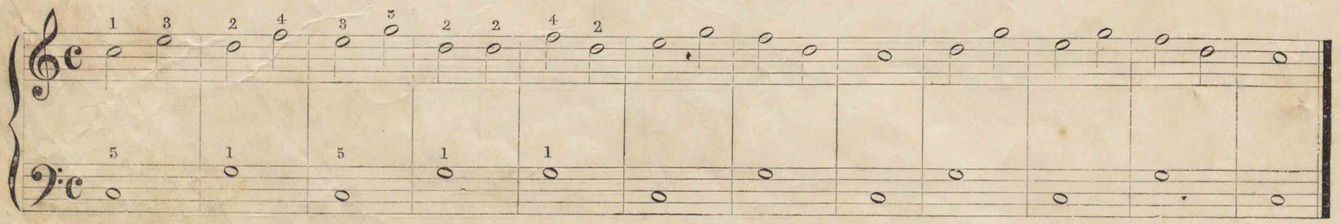
3.



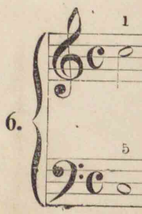
4.



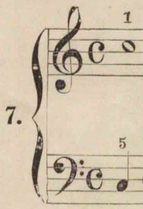
5.



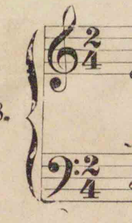
6.



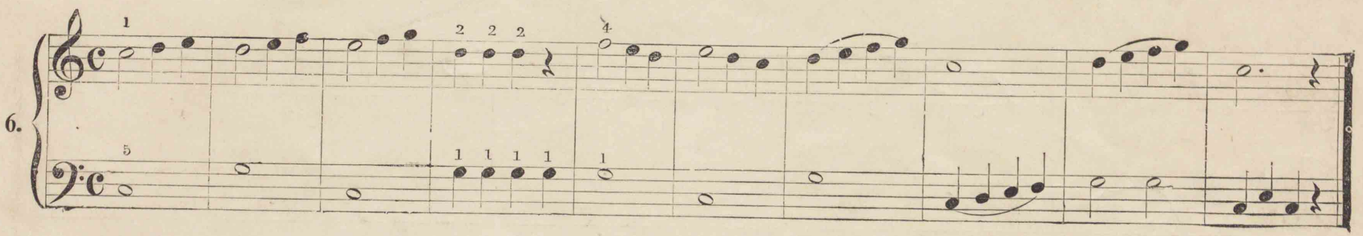
7.



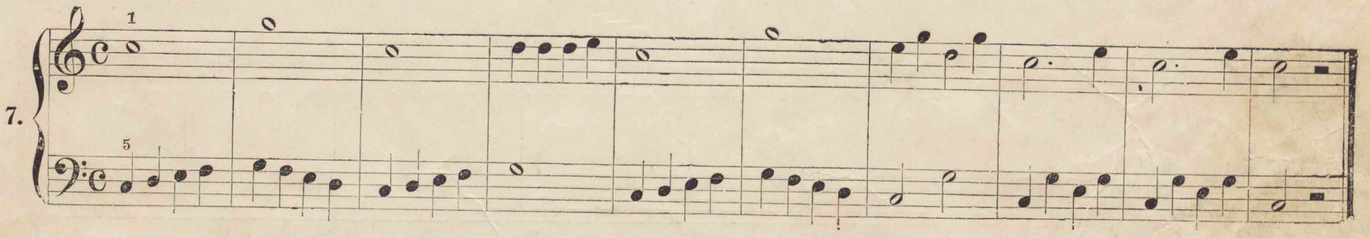
8.



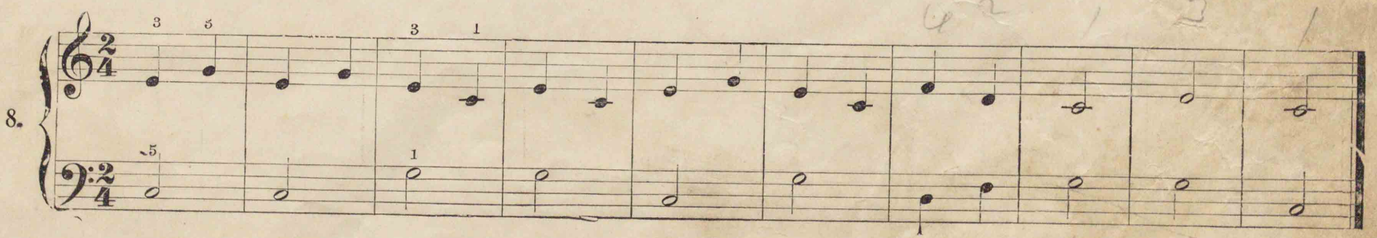
6.



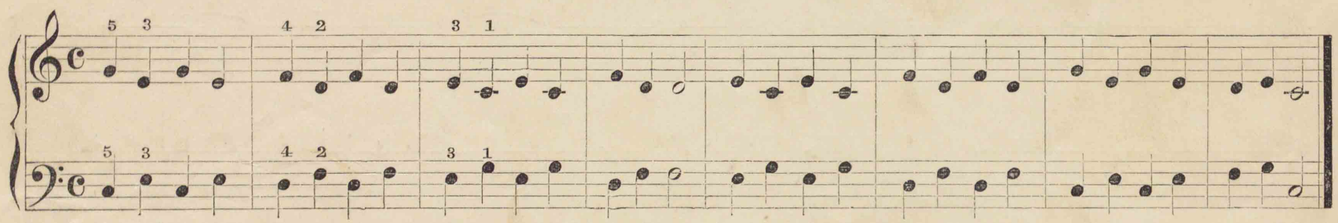
7.



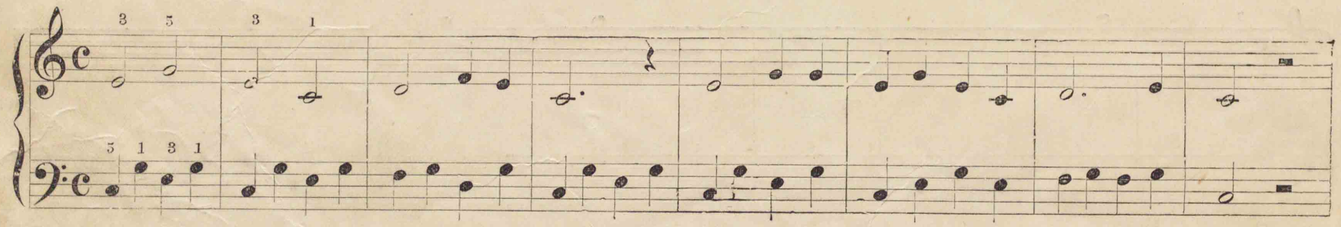
8.

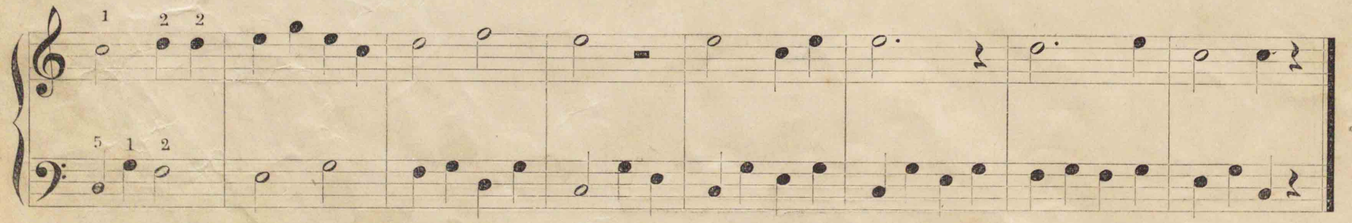


9.

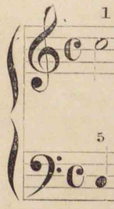


10.

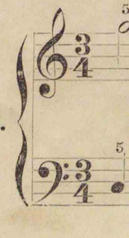


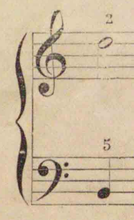


11.

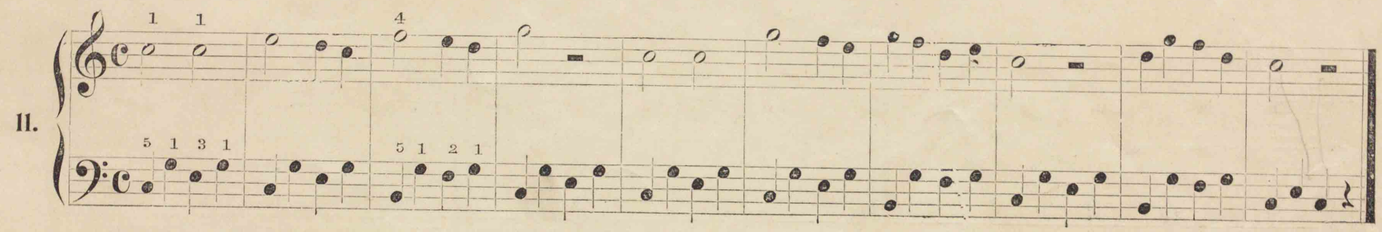


12.

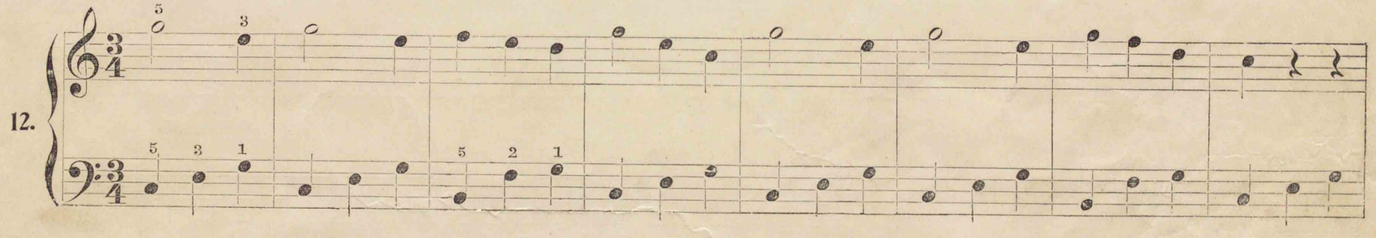


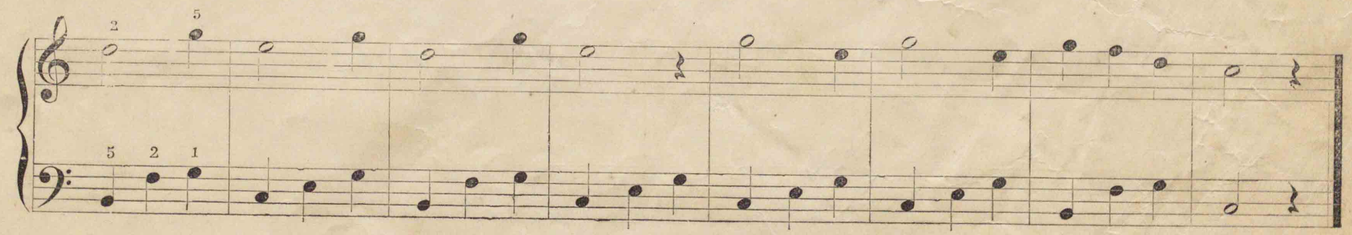


11.

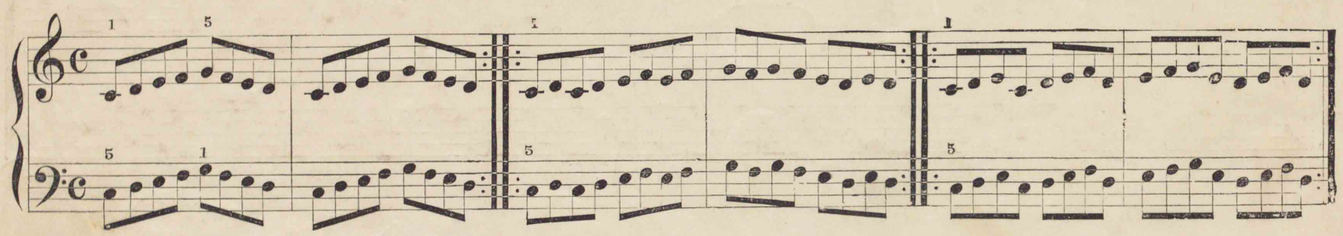


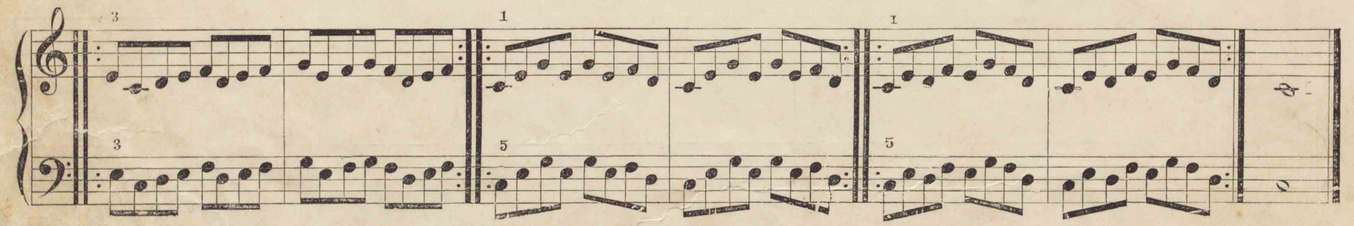
12.





五指練習



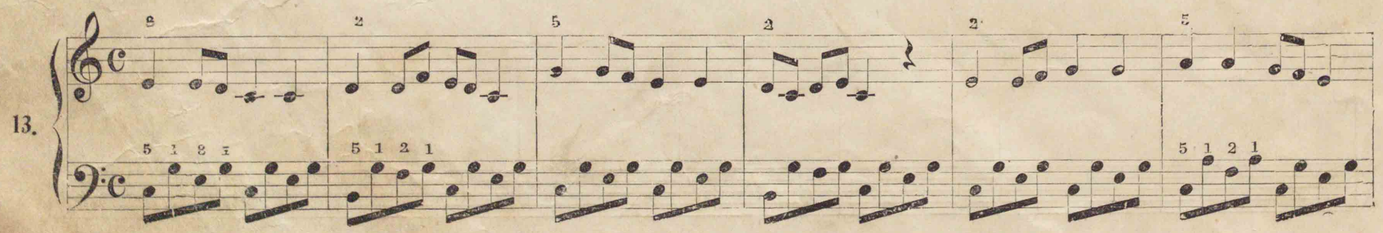


四十四年二学期 二年試験
No.13 — 20.マデ

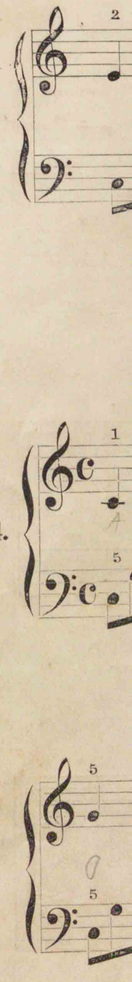
AMUSEMENT.

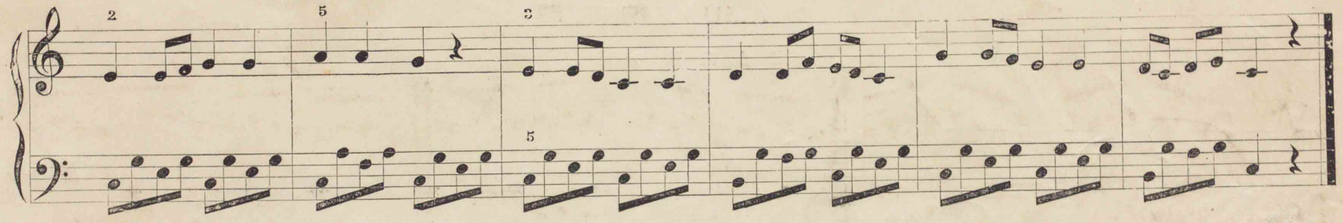
(娯樂的應用練習曲の意、以下之に同じ)

13.

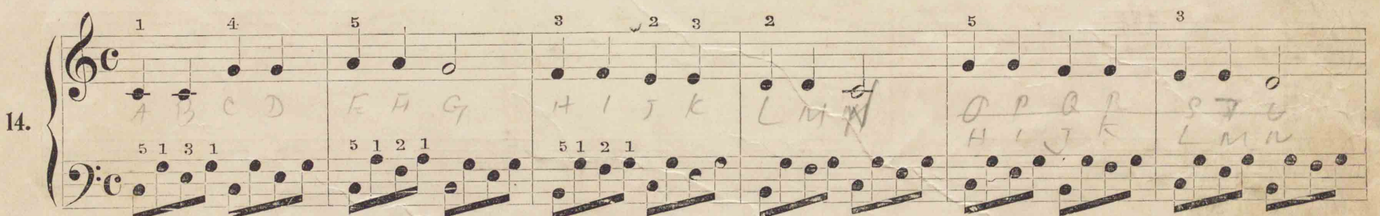


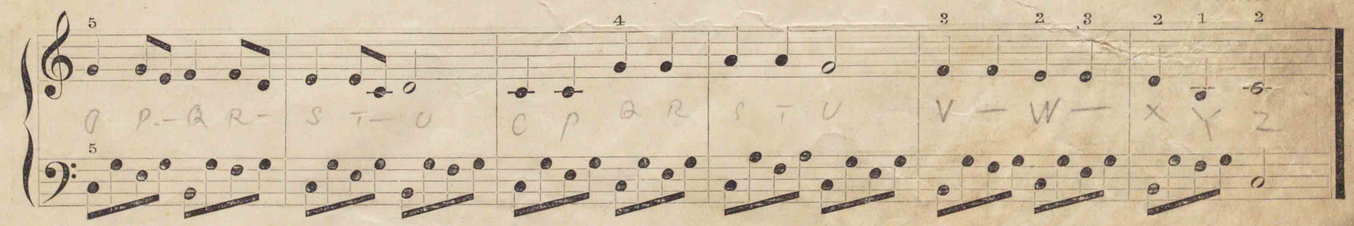
14.





AMUSEMENT.

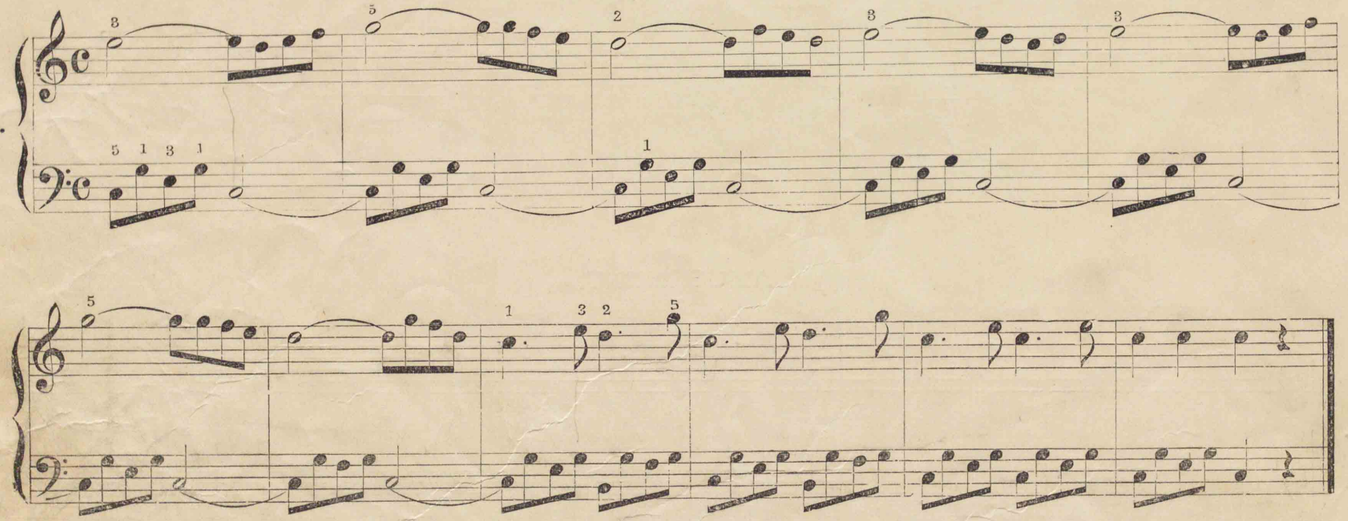




AMUSEMENT.

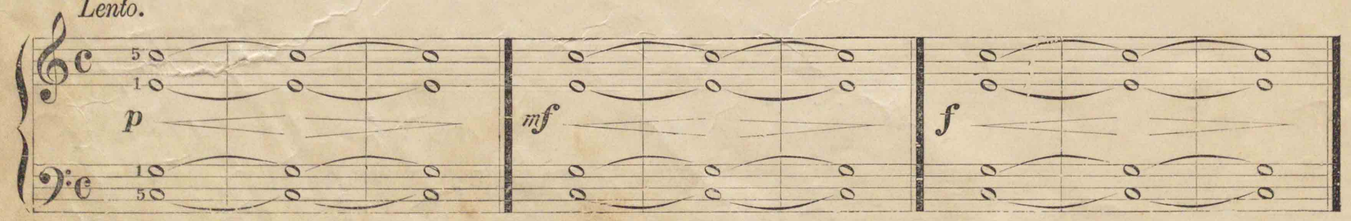
〈結合記號の練習〉

15.

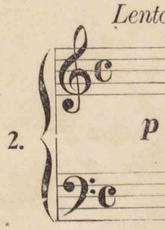


增音器練習

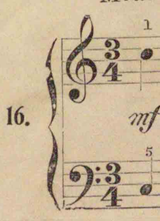
1. *Lento.*



2. *Lento*

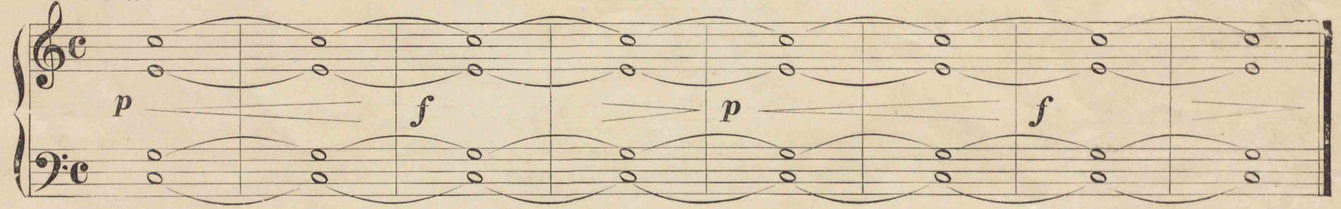


16. *Moder*

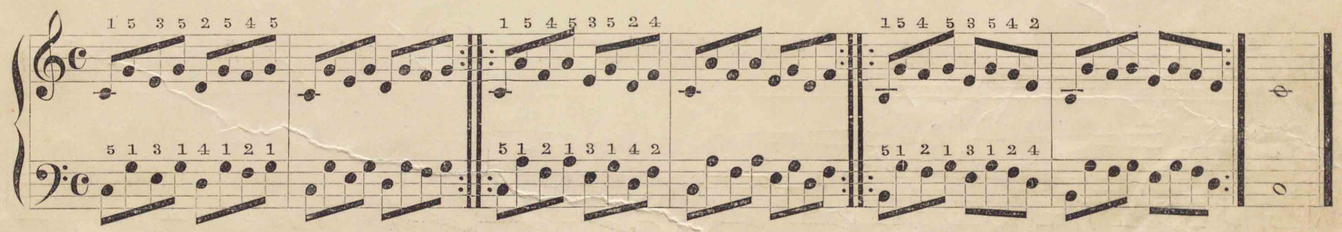


Lento.

2.



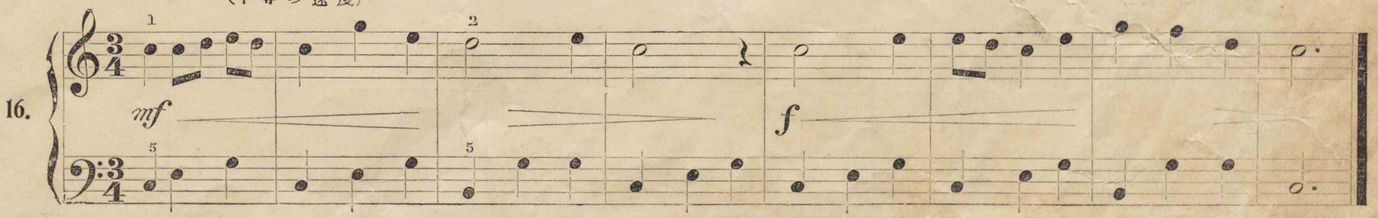
五 指 練 習



AMUSEMENT.

Moderato. (中等の速度)

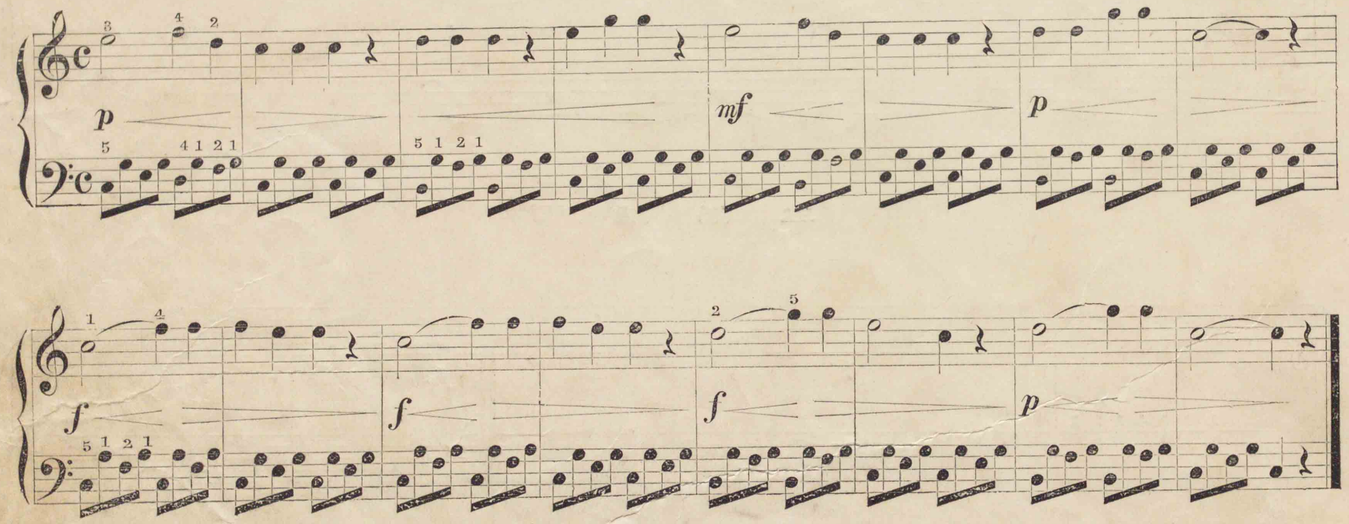
16.



AMUSEMENT.

Moderato.

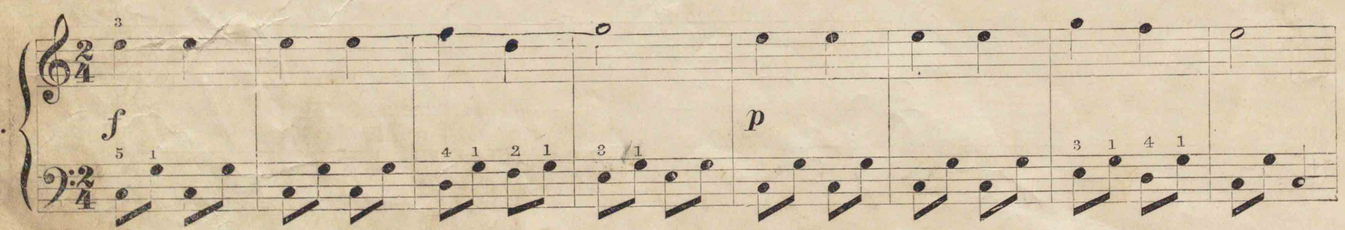
17.



AMUSEMENT.

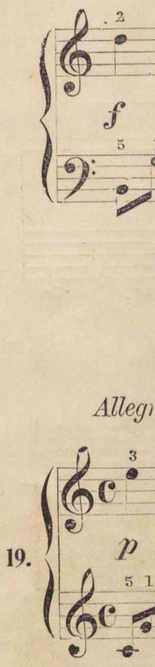
Allegro. (急　速)

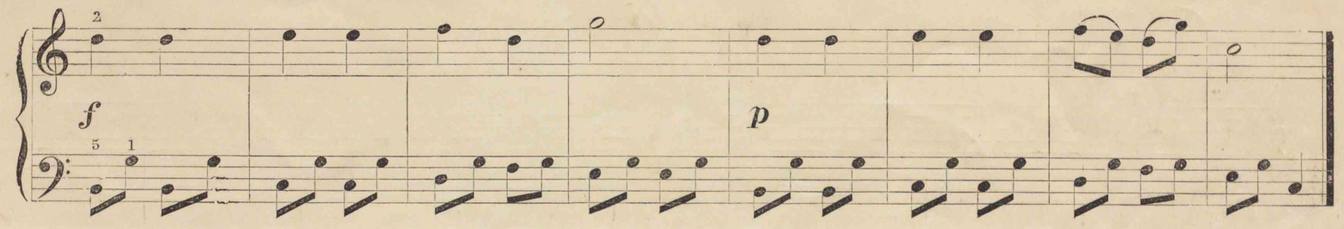
18.



Alleg

19.

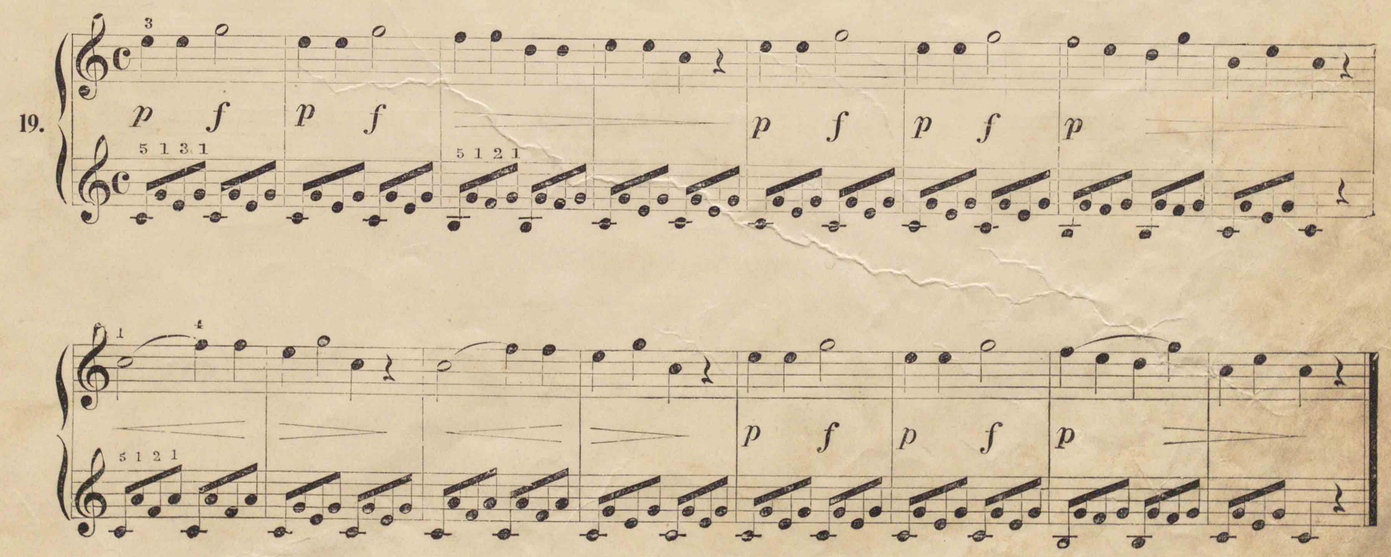




AMUSEMENT.

Allegretto. (稍急速)

19.

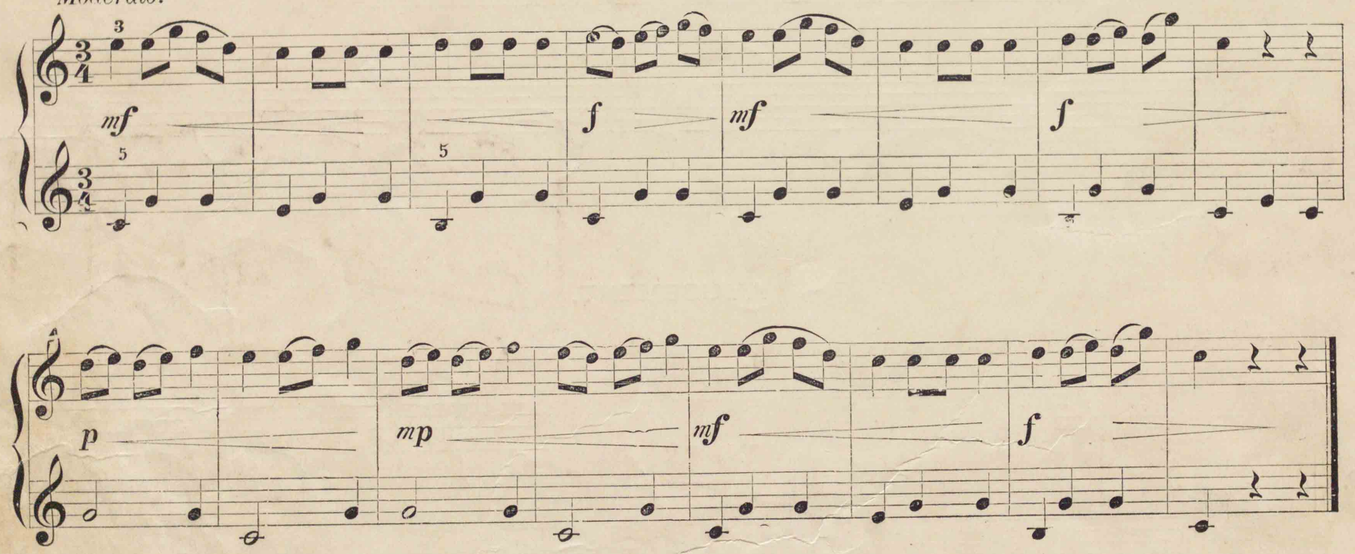


WALTZ.

Moderato.

(舞踏曲の一種)

20.



第二部門

二重音練習曲

は調長音階

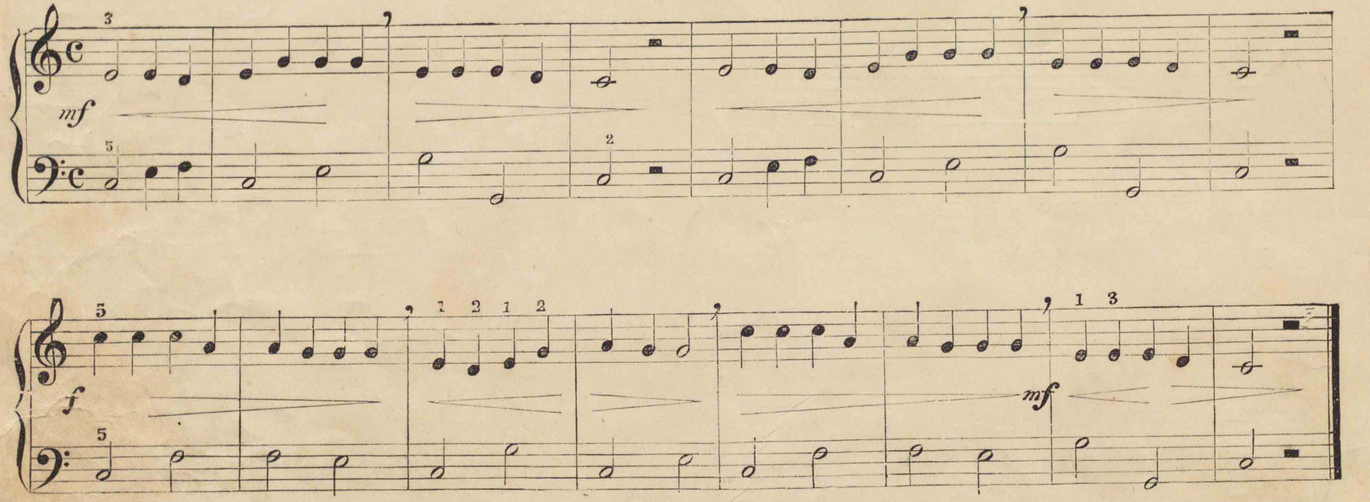
五指練習曲

1. THERE IS A HAPPY LAND.

（小學唱歌集　春の彌生）

Moderato.

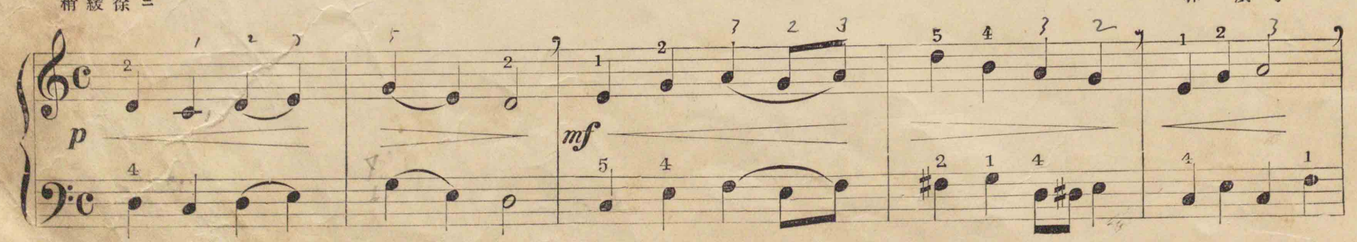
Hindoo Melody.



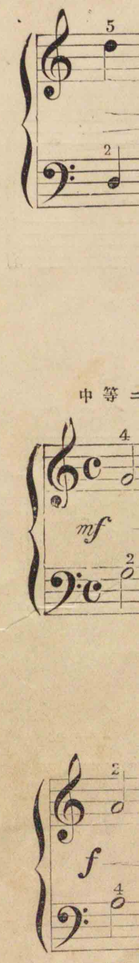
2. 君　が　代

稍緩徐ニ

林　廣守



中等ニ



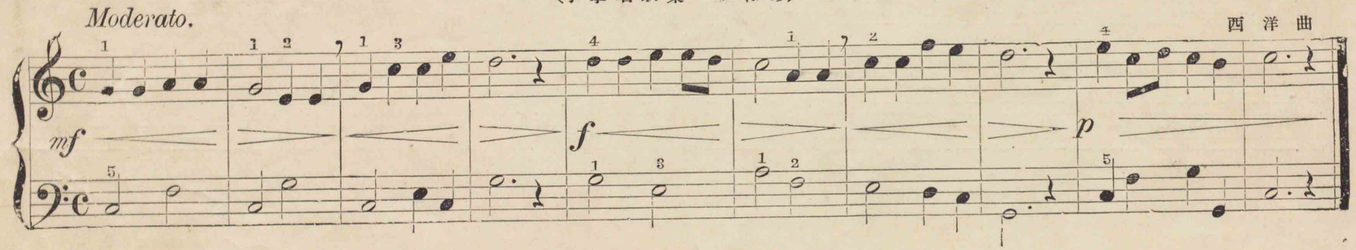
3. 紀　　元　　節

中等ニ

伊澤修二

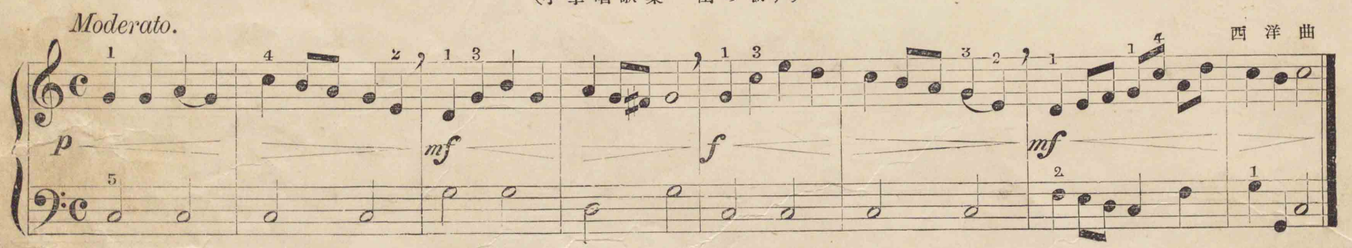
4. THE SPRING SONG.

(小學唱歌集　おぼろ)



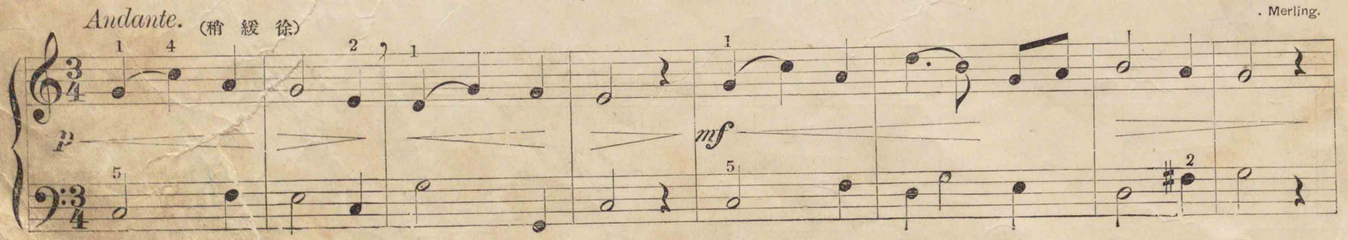
5. THE MORNING SONG.

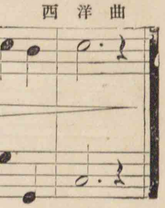
(小學唱歌集　闇の板戸)

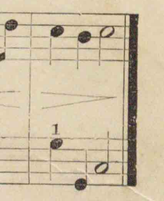


6. THE MOON.

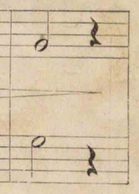
(小學唱歌集　岩もる水)

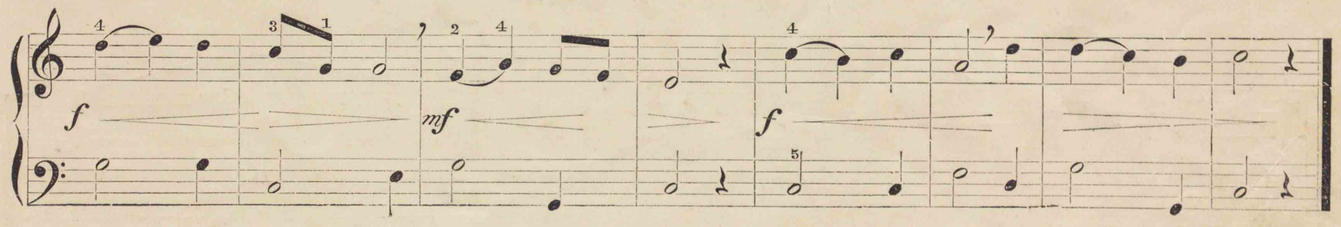






. Merling.



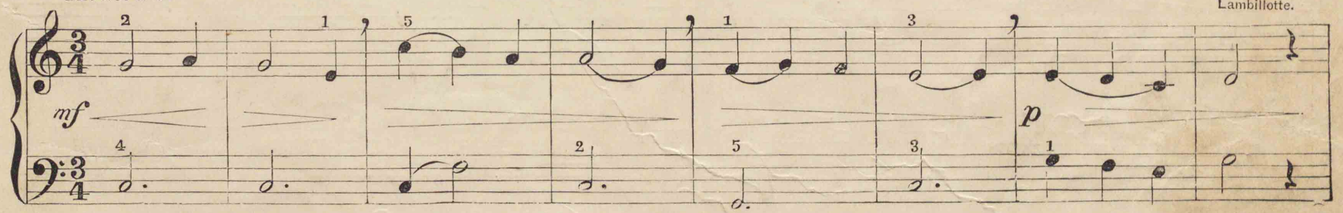


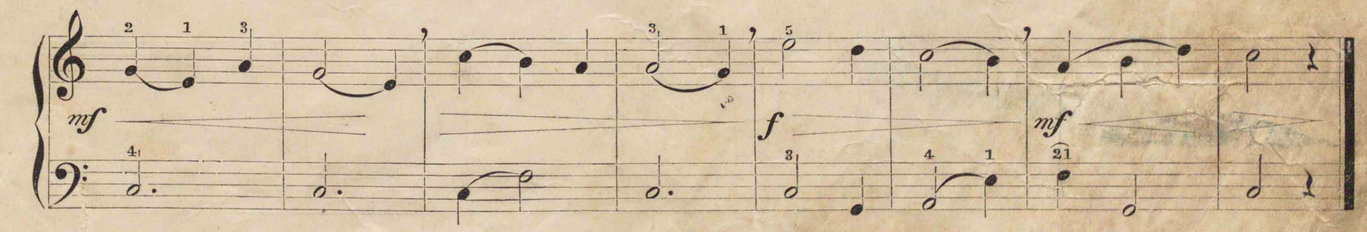
7. AS THE DEWG SHADES.

(小學唱歌集　治まる御代)

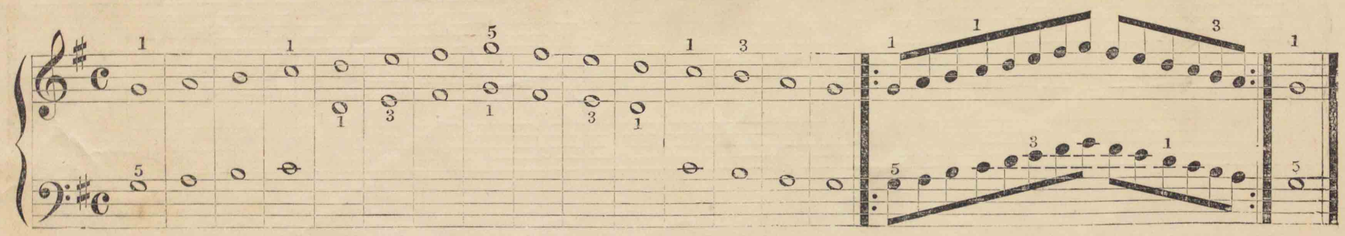
Moderato.

Lambillotte.

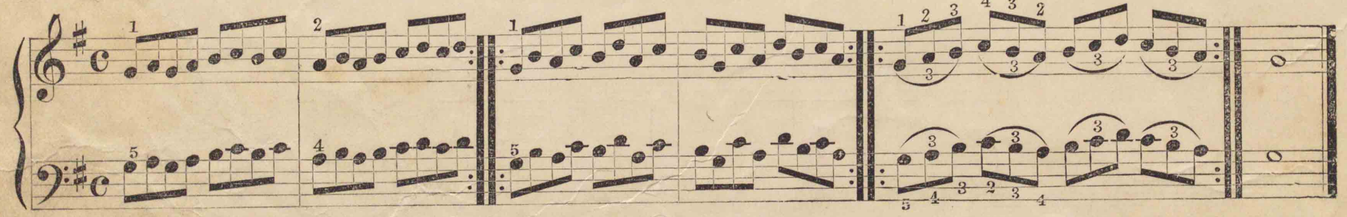




と調長音階



五指練習



四四年二学期三年
8—16 試験

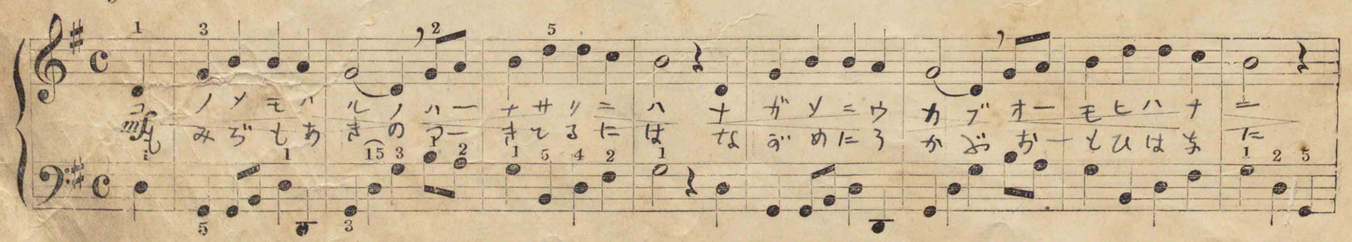
8. DER GUTE KAMERAD.

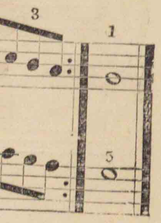
(良友) (少年唱歌 良友)

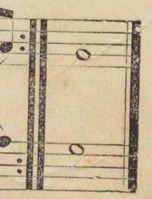
懐友

Allegretto.

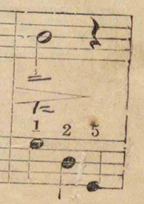
Volksweise.

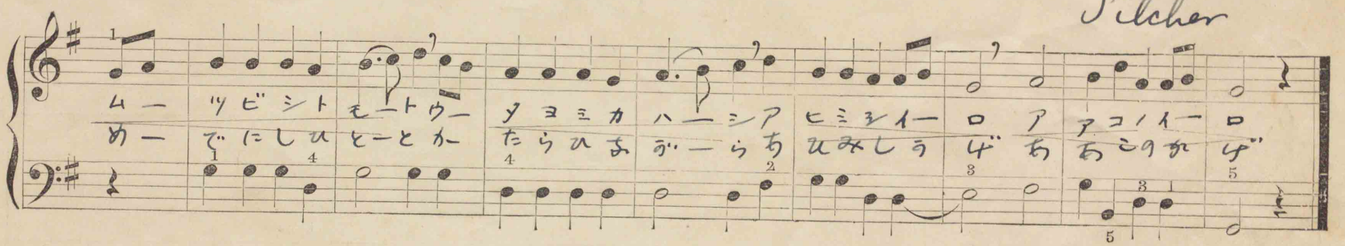






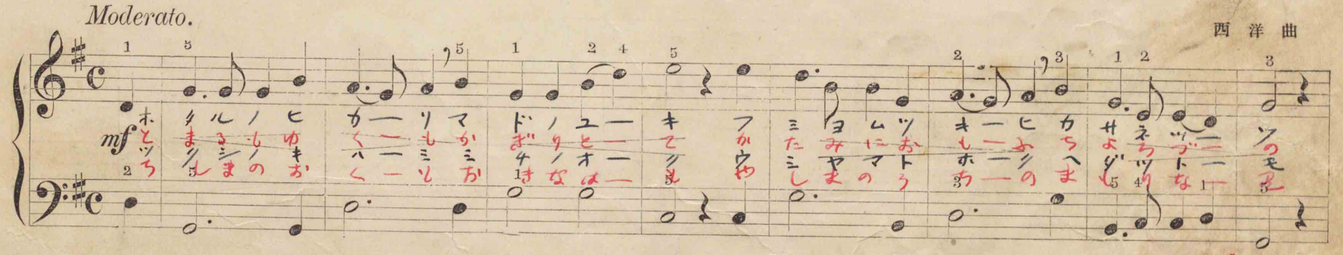
Volksweise.

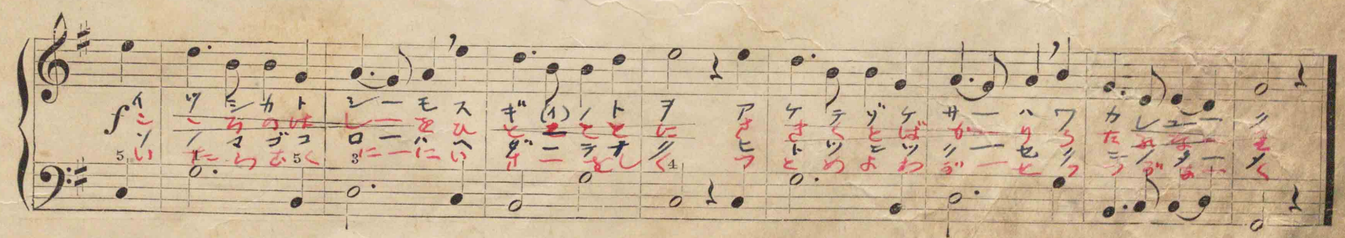




9. OLD FRIEND.

(小學唱歌集　螢)



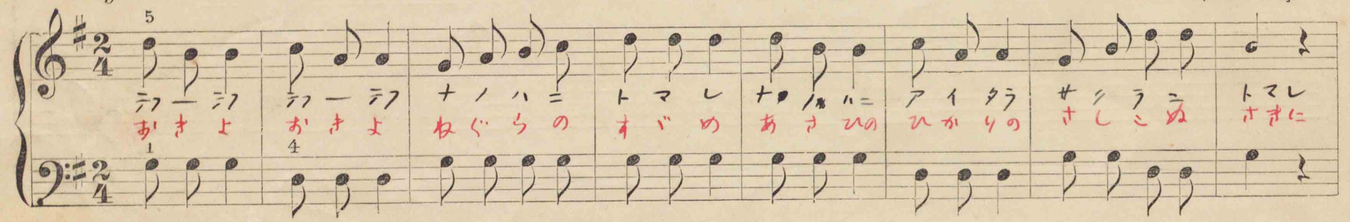


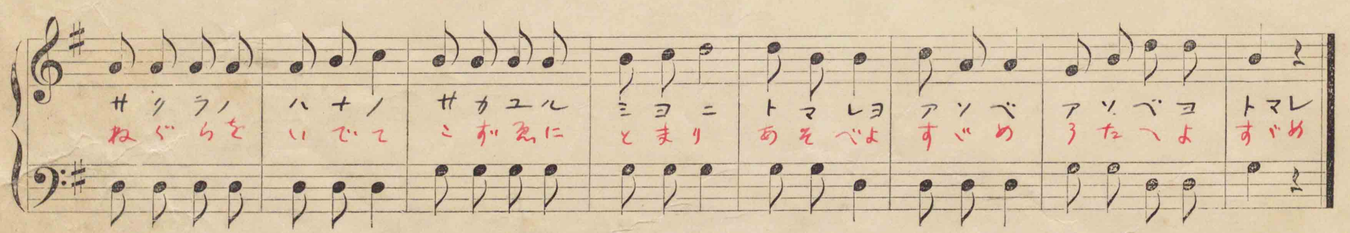
10. BOAT SONG.

（小學唱歌集　蝶々）

Allegretto.

Spanish Melody.



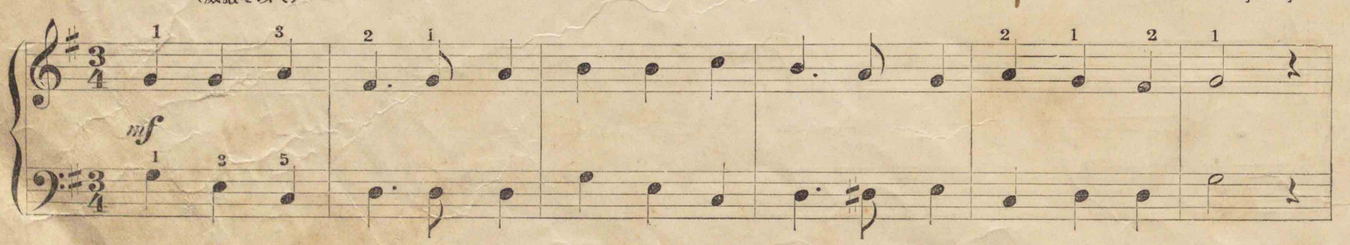


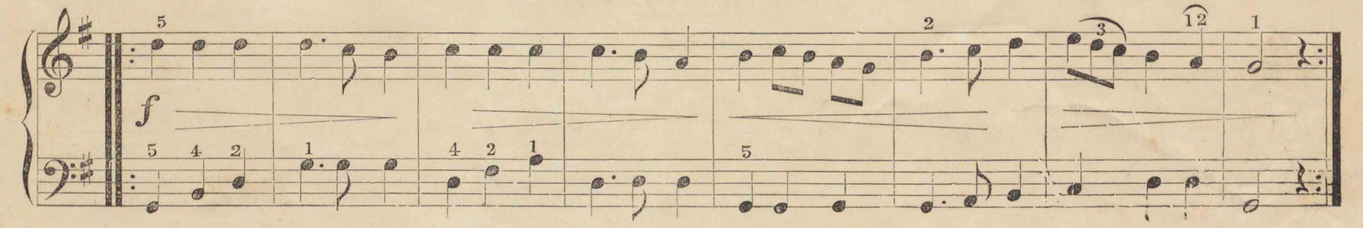
11. GOD SAVE THE KING.

（英國々歌）（少年唱歌　軍艦）

Maestoso.（威嚴を以て）

Henry Carey.



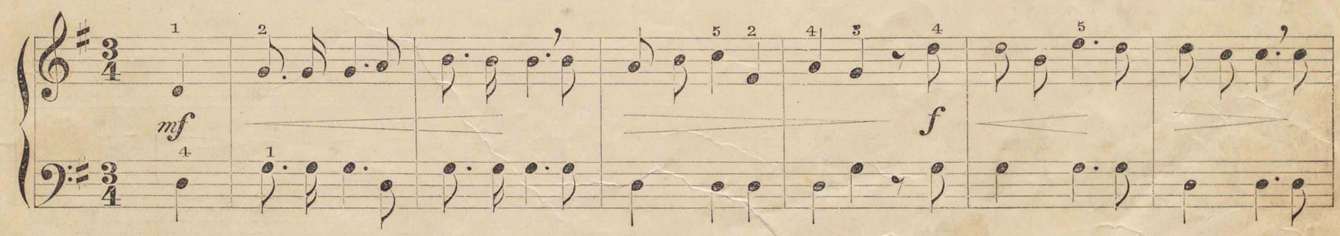


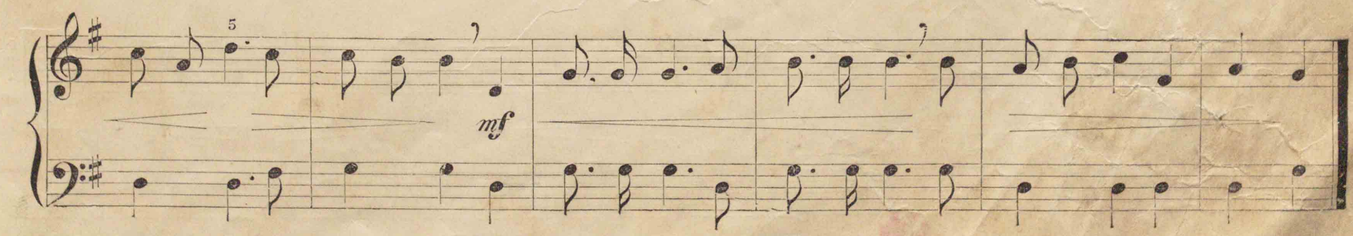
12. DER TANNENBAUM.

（樅の木）（少年唱歌　常盤木）

Moderato.

Volksweise.



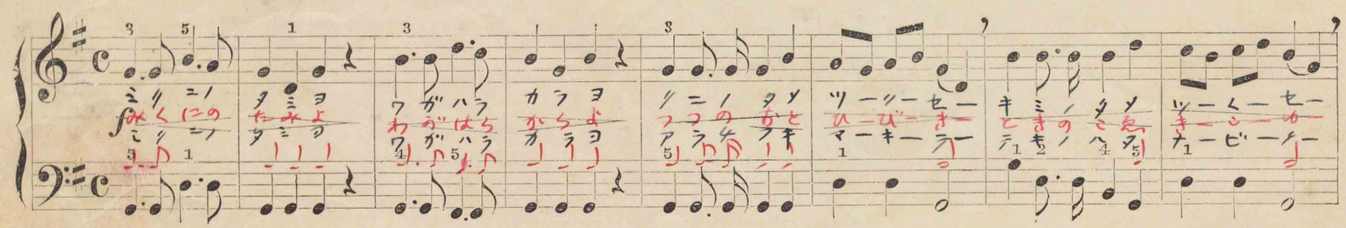


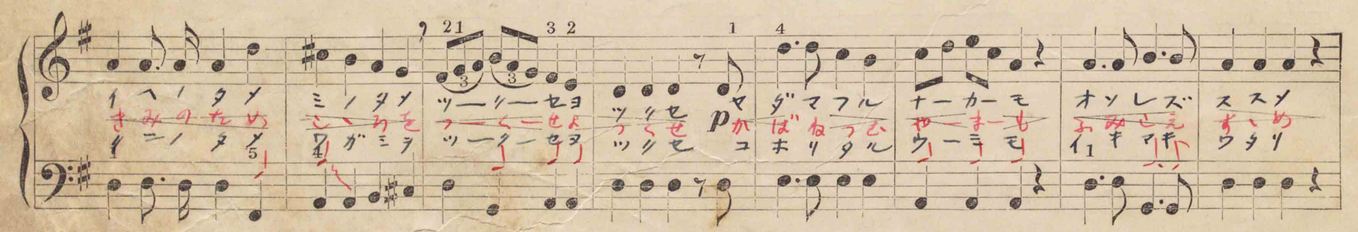
13. HAIL, COLUMBIA.

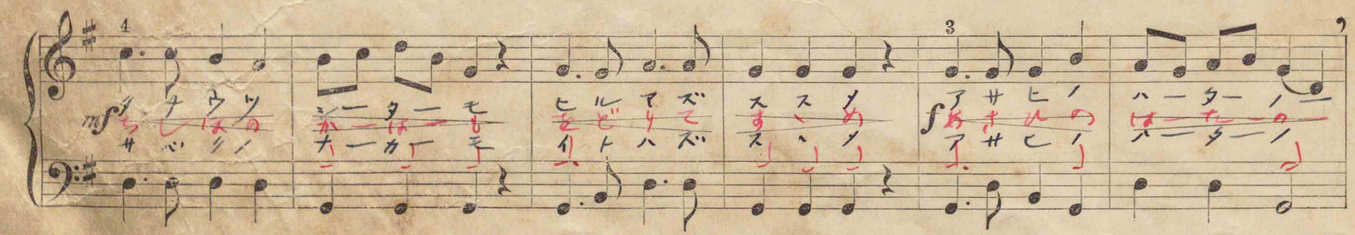
（米國々歌）（中等唱歌集　御國の民）

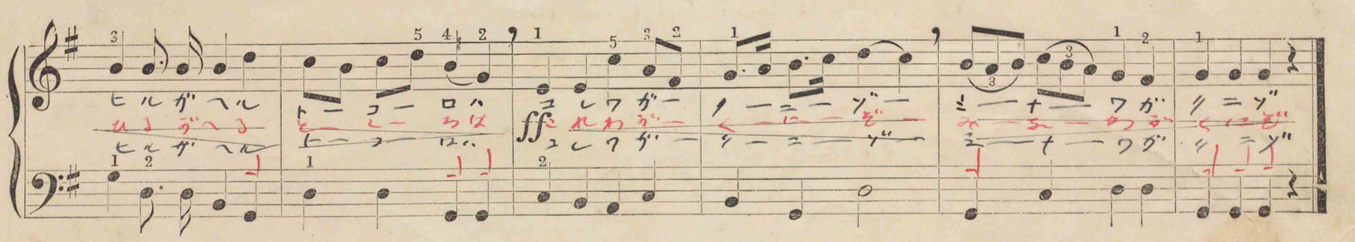
Maestoso.

（作歌）F. Hopkinson

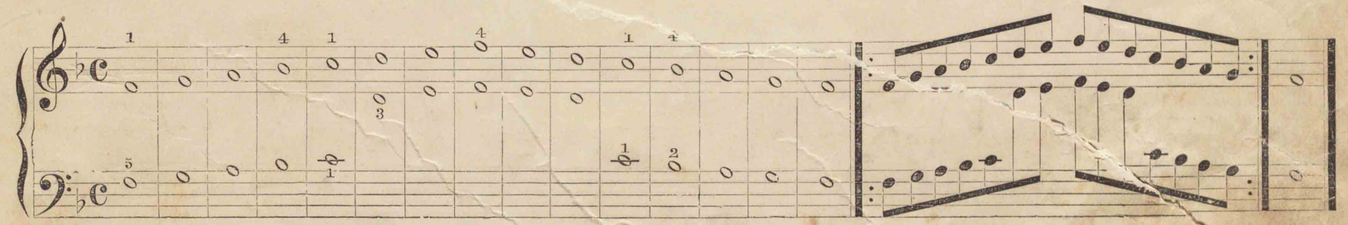




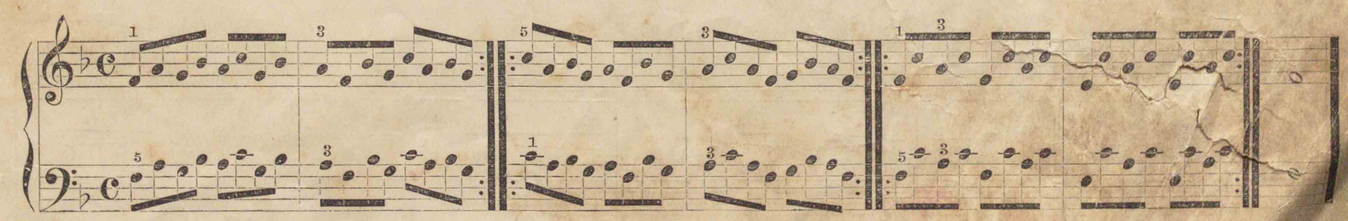




ヘ調長音階



五　指　練　習

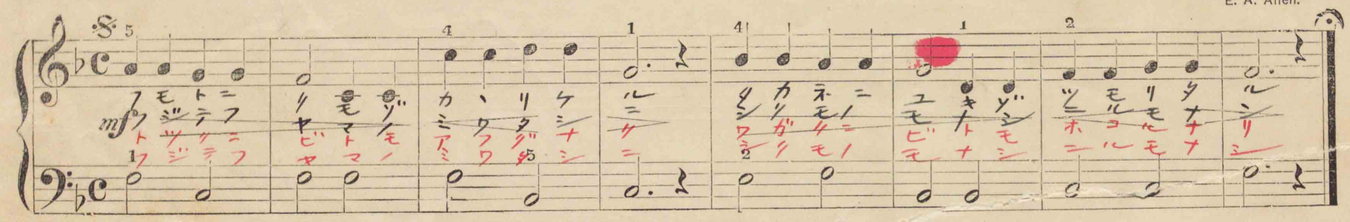


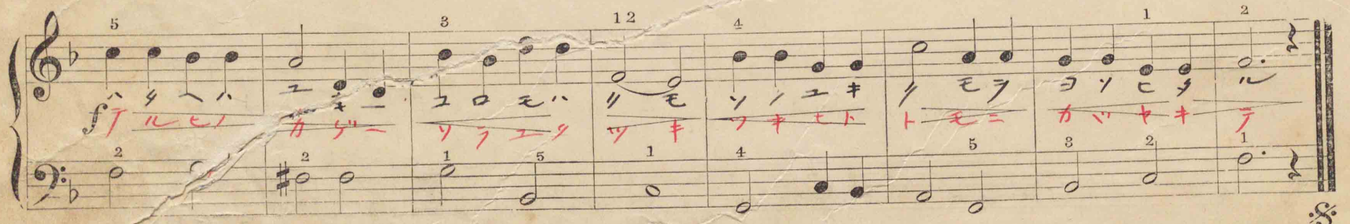
14. SINGING IN THE RAIN.

(雨中の歌) (小學唱歌集　富士山)

Moderato.

E. A. Allen.



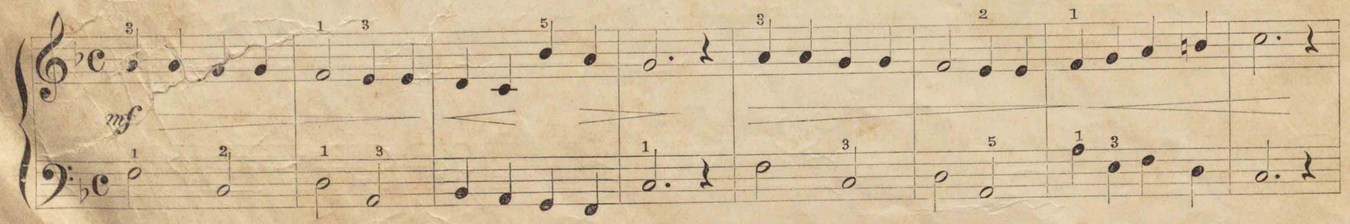


15. THE RAIN.

(小學唱歌集　霞める空)

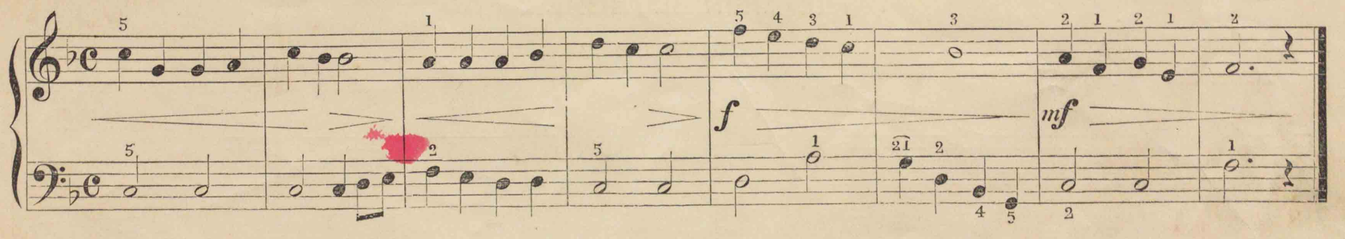
Andante.

Sehade.



E. A. Allen.

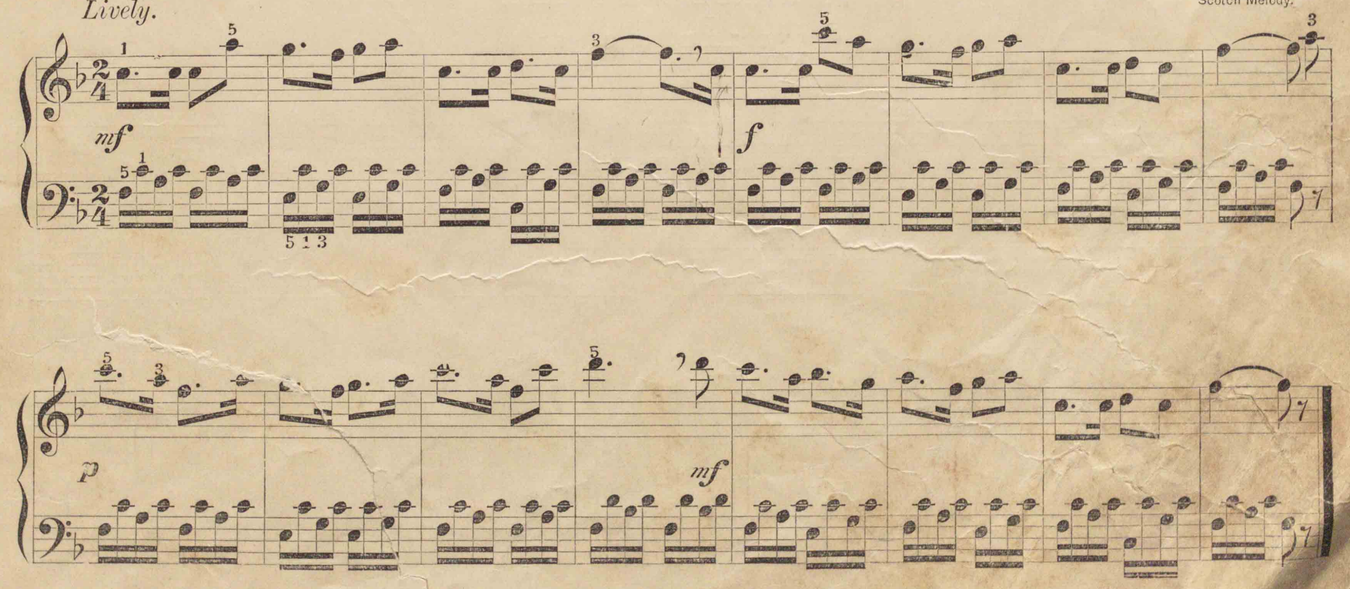
Sehade.



16. COMIN' THRO' THE RYE.

Lively.

Scotch Melody.

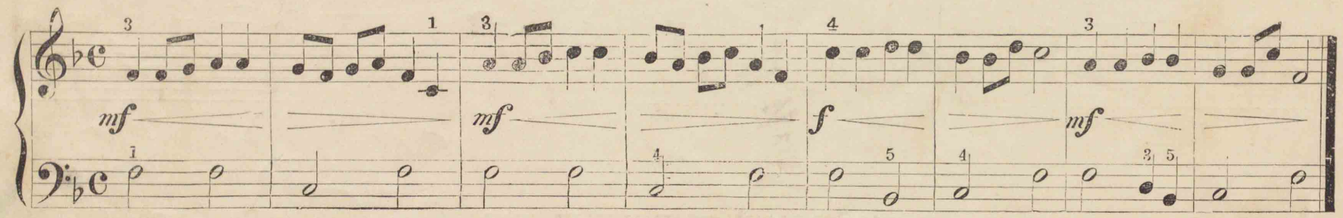


17. MEIN BLUMCHEN.

(私の愛らしき花)

Moderato.

Nach einer weise von E. Richter.

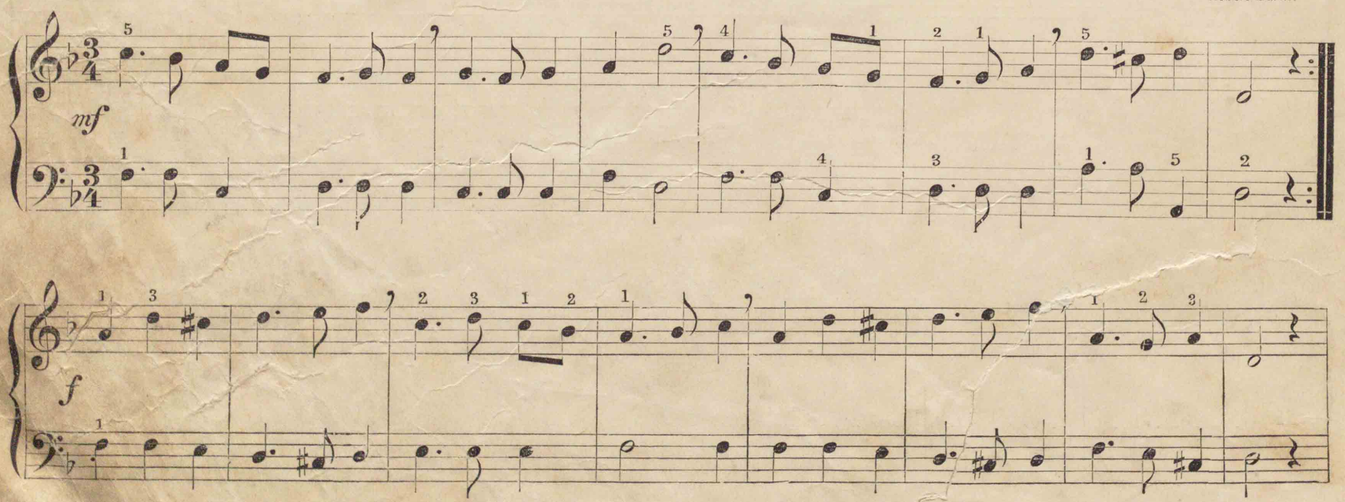


18. WANDERING WILLIE.

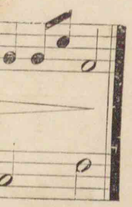
(小學唱歌集　昨日今日)

Andantino.

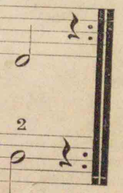
Robert Burns.

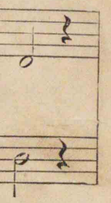


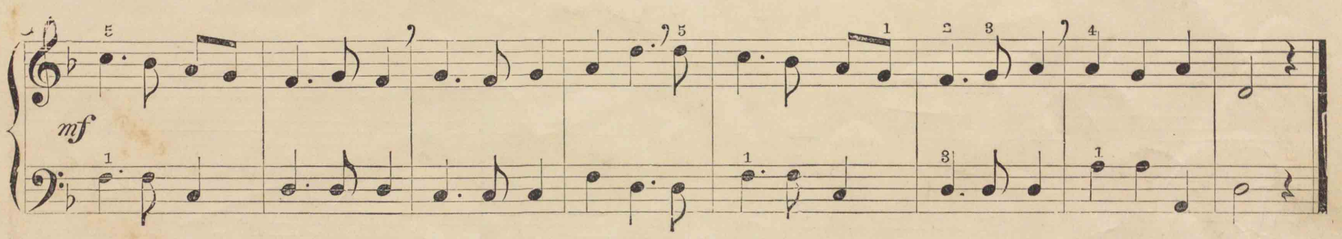
von E. Richter.



obert Burns.





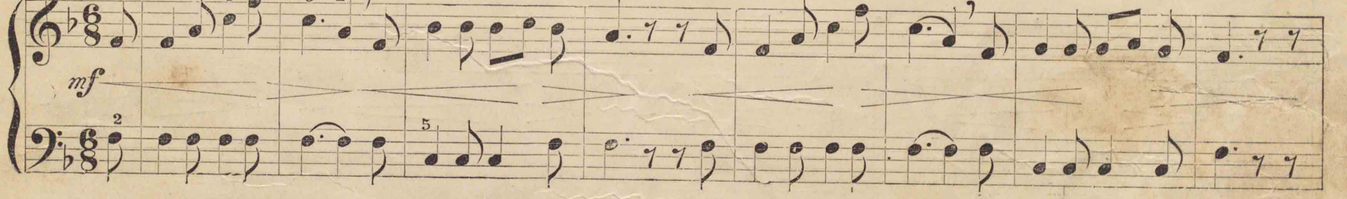


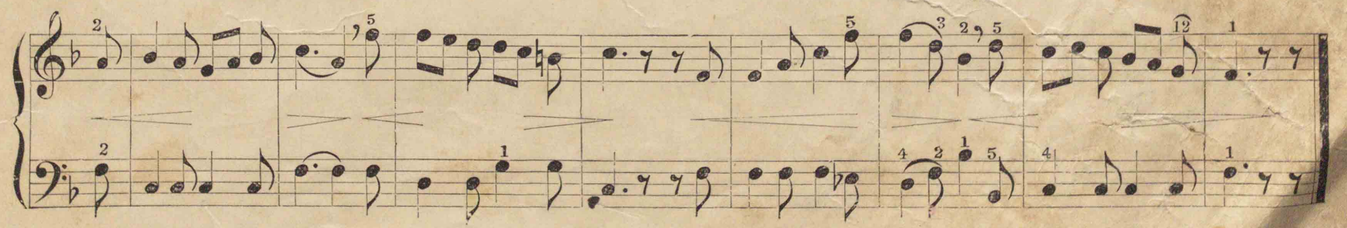
19. KOMM, LIEBER MAI!

(来れ愛らしき五月よ) (少年唱歌　漁船)

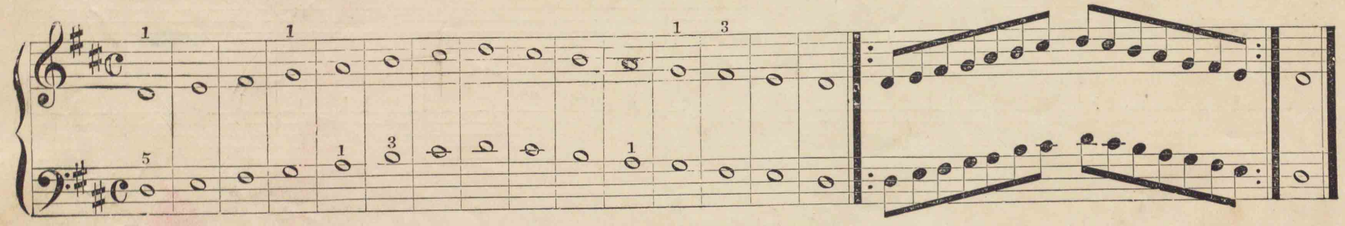
Allegretto.

Mozart.





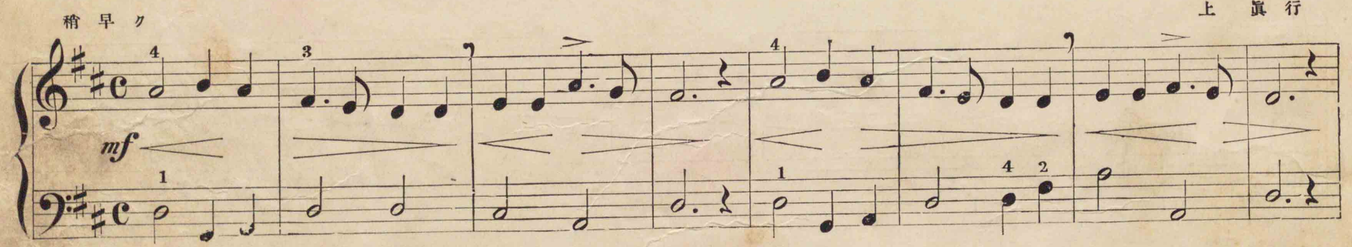
に調長音階

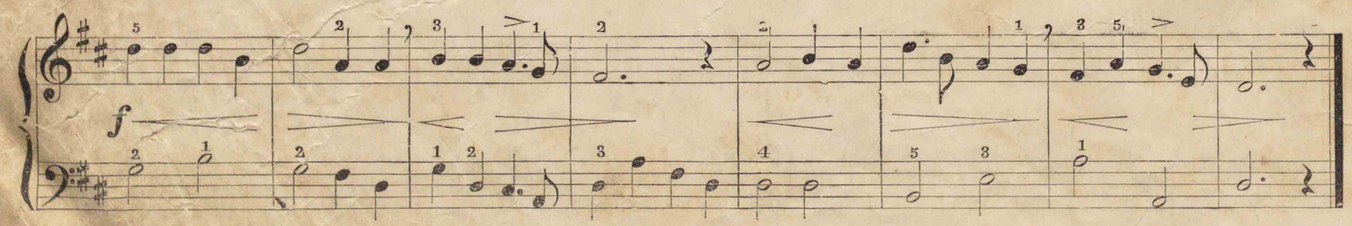


20. 一　月　一　日

稍早ク

上　眞行



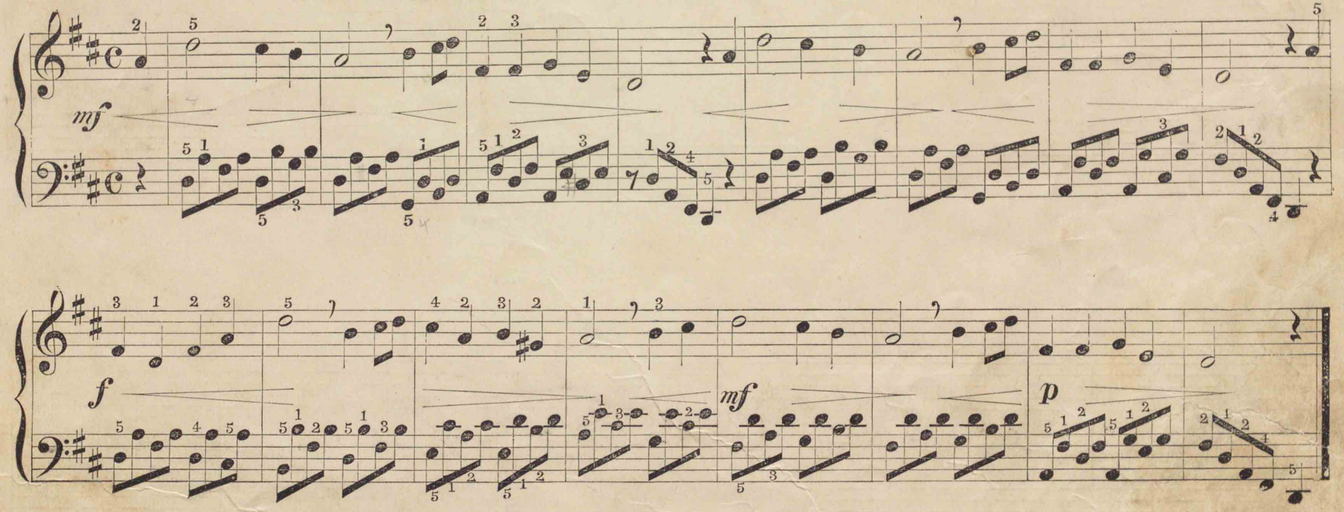


21. THE BLUE BELLS OF SCOTLAND.

(小學唱歌集　美しき)

Moderato.

Mrs. Jordan.

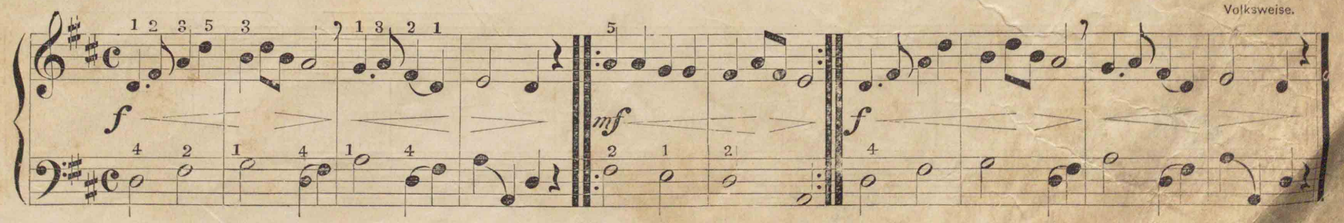


22. SPRING SONG.

(小學唱歌集　霞か雲か)

Moderato.

Volksweise.

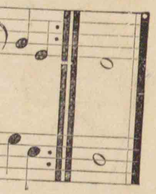


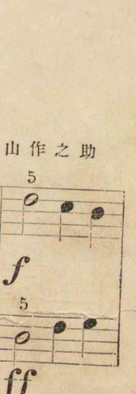
五　指　練　習

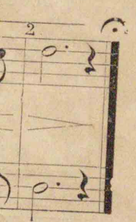
23. 勅　語　奉　答

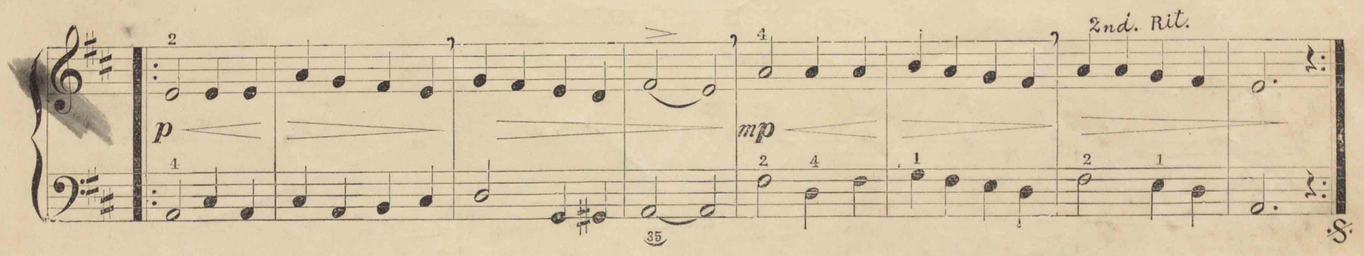
壯嚴ニ　　小山作之助

山作之助







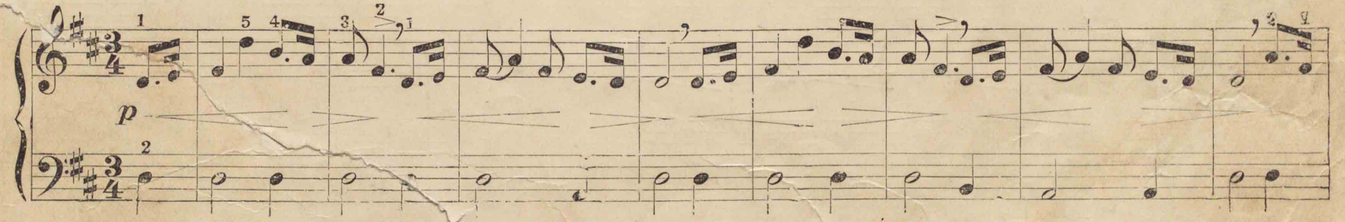


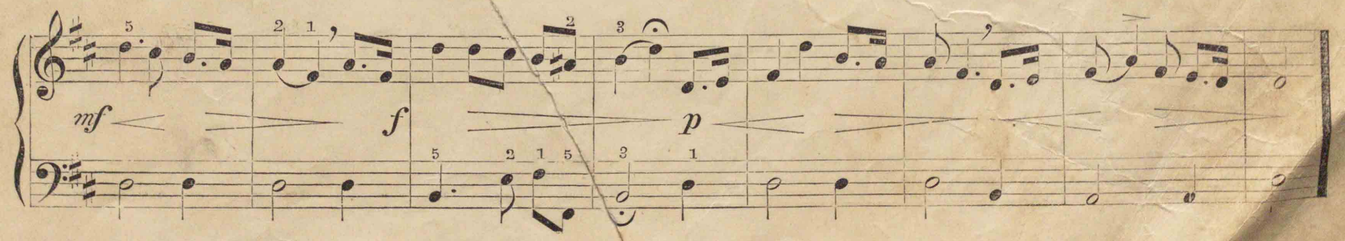
24. THE LAST ROSE OF SUMMER.

（小學唱歌集　菊）

Audantino.

Thomas Moor.



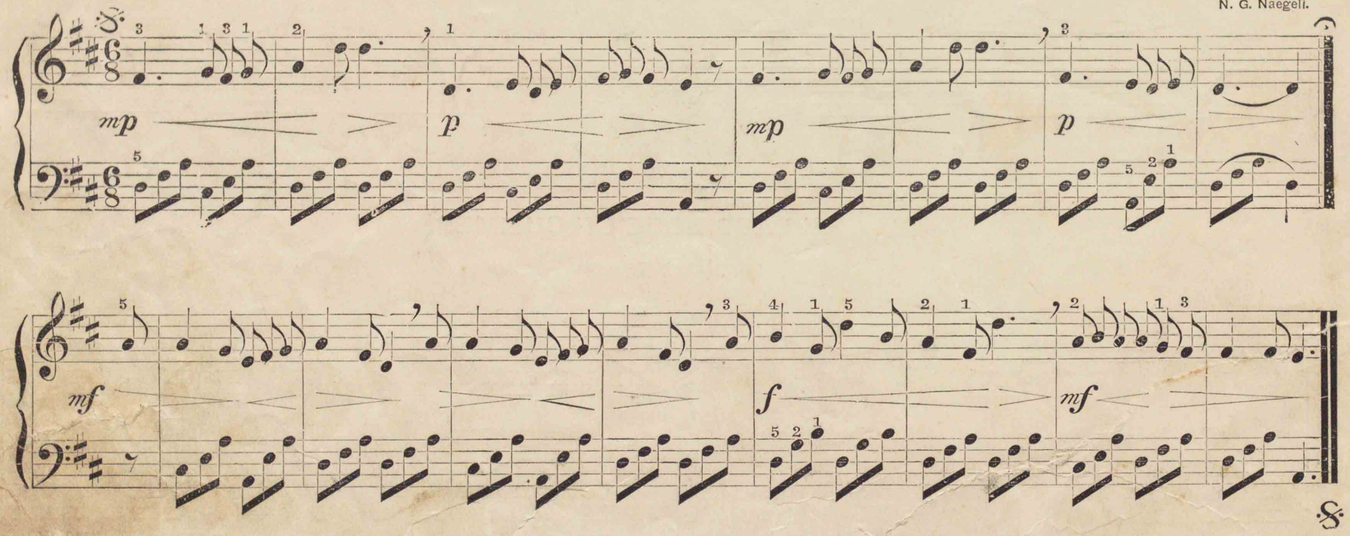


25. FREUT EUCH DESL EBENS.

(愉快に暮せ) (小學唱歌集　年立つ今朝)

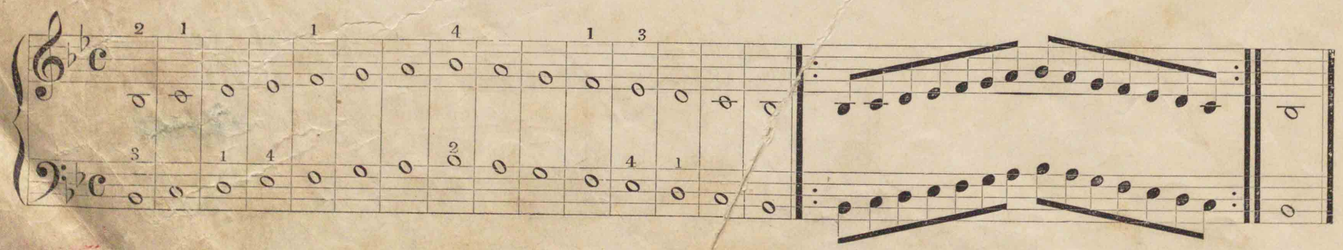
Allegretto.

N. G. Naegeli.

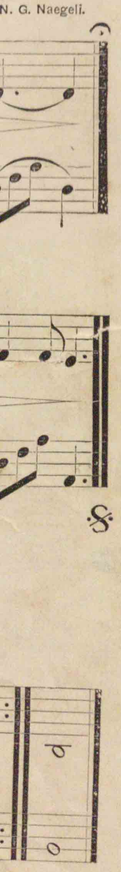


III. 一ヶ月

變ろ調長音階



N. G. Naegeli.



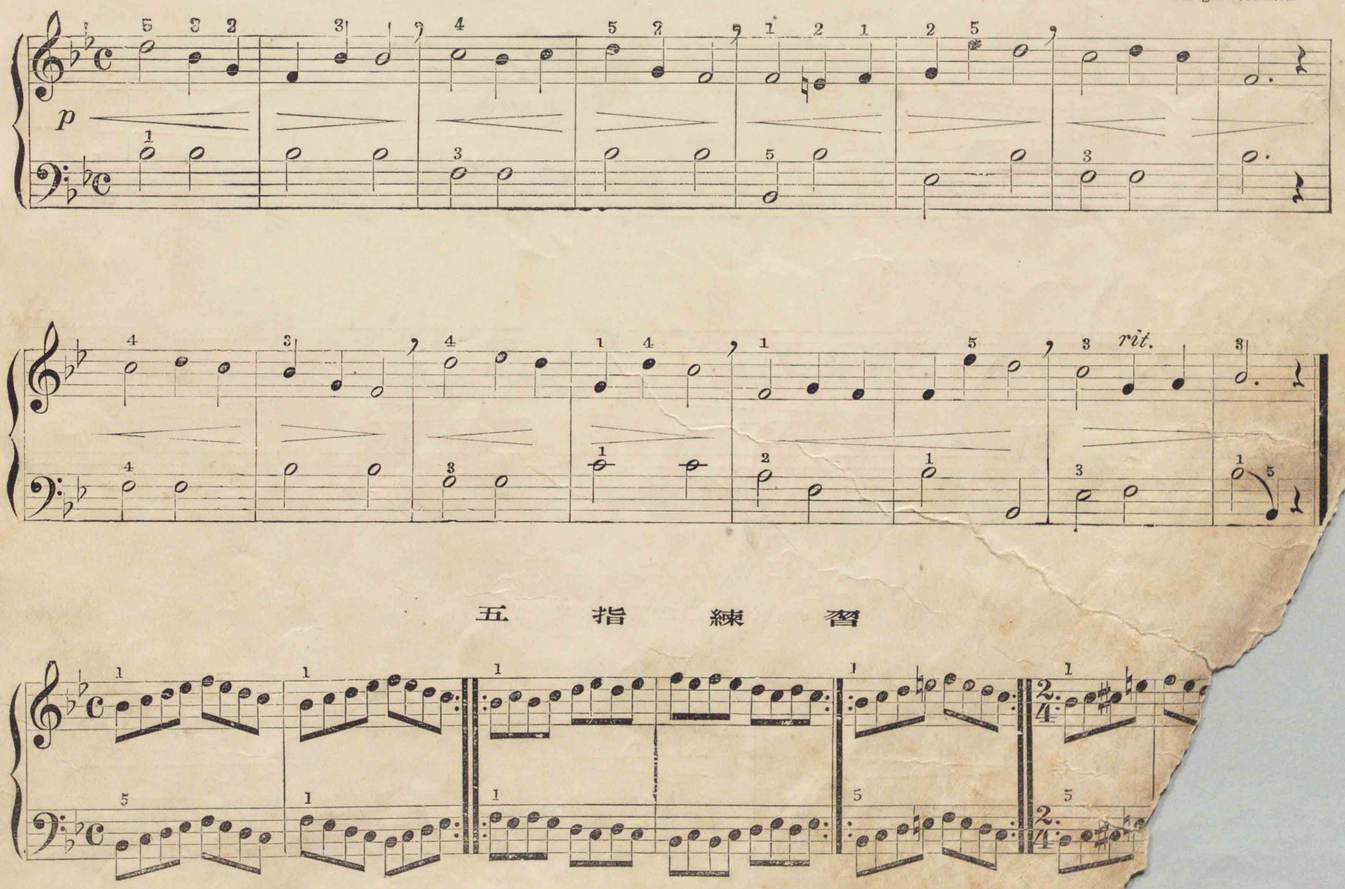
Ⅲ、一学期

26. TREUE LIEBE.

(眞の愛歌)(少年唱歌　野邊の花)

Aadante.

Thürigner Volkslied.



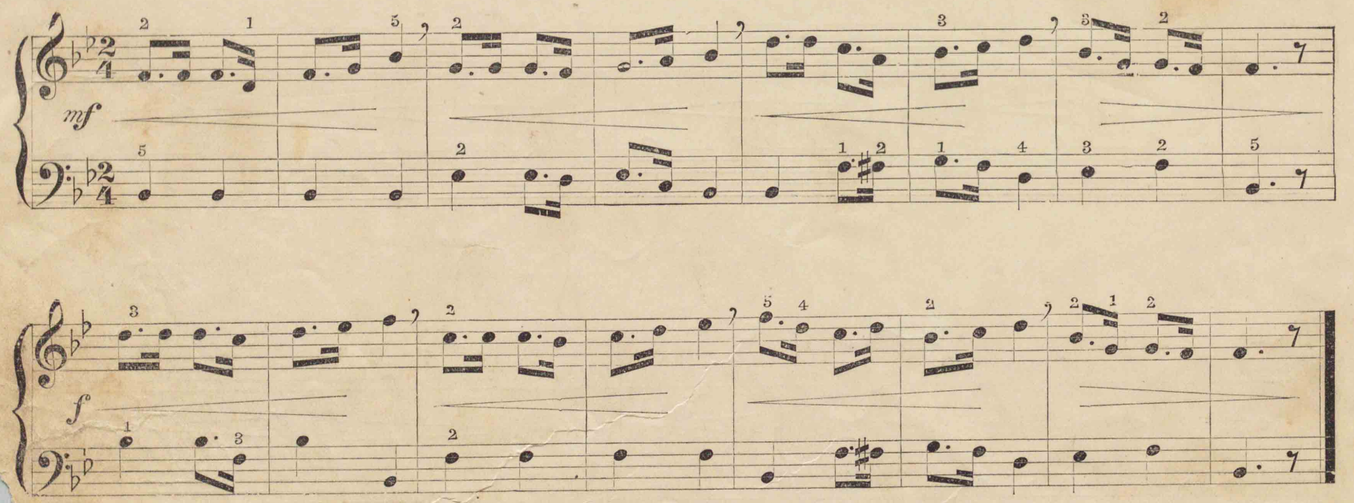
五　指　練　習

27. SCOTS WHE HAE.

（スコットランド國々歌）

Allegretto.

Scotland Hymn.

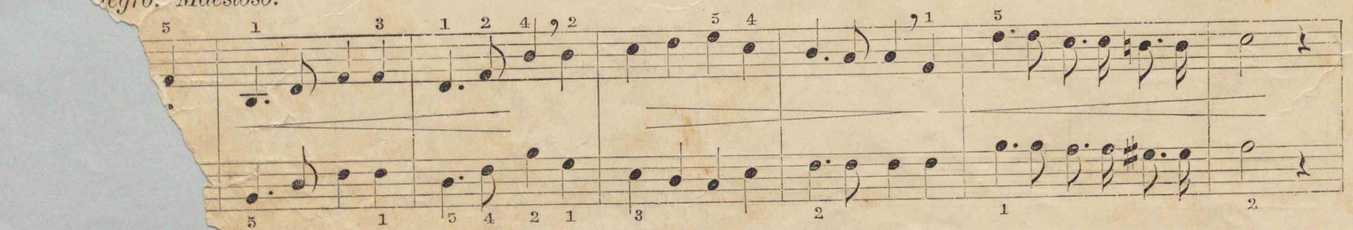


28. DIE WACHT AM RHEIN.

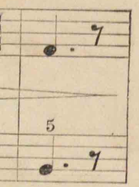
（獨國々歌）（中等唱歌集　火砲の雷）

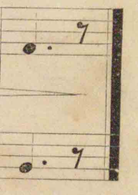
Allegro. Maestoso.

Karl Wilhelm.

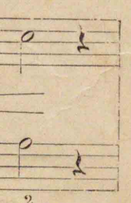


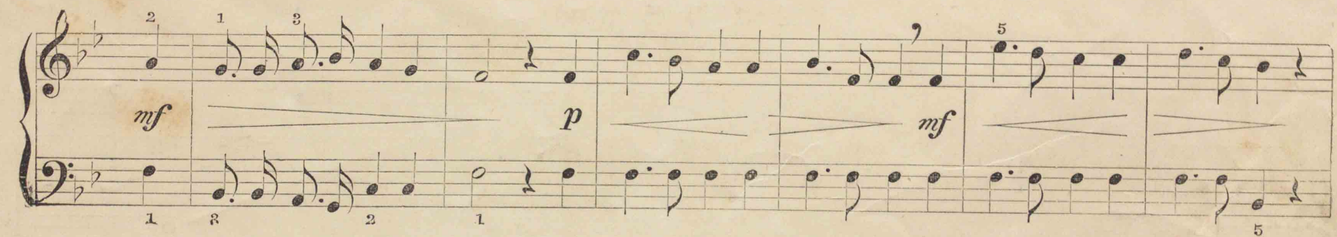
Scotland Hymn.

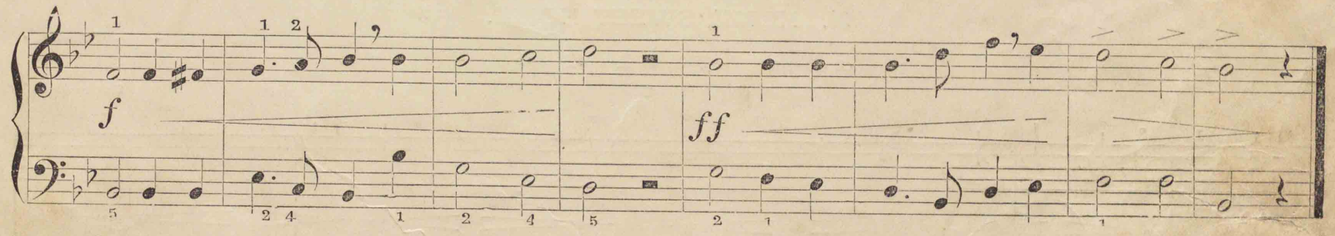




Karl Wilhelm.





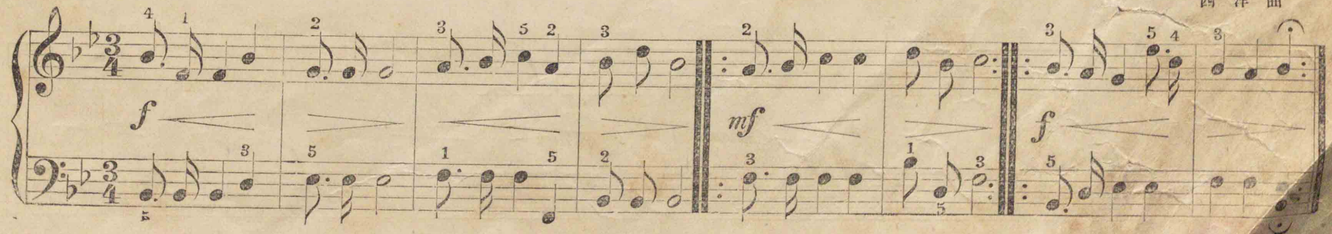


29. RÄUBERLIED.

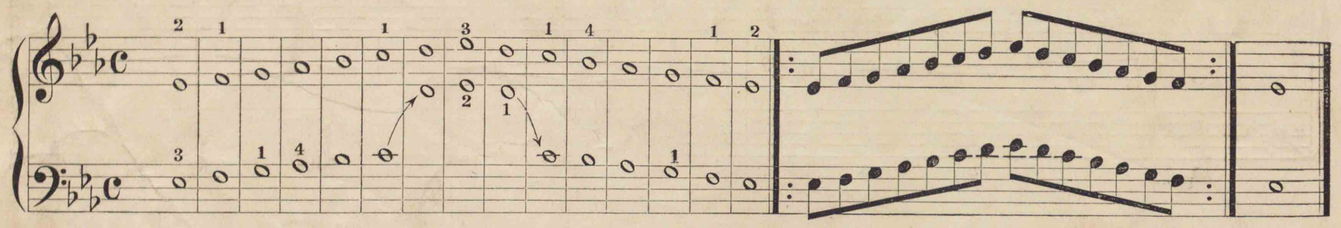
(盗賊の歌) (中等唱歌集　身も世も忘れ)

西洋曲

Lively.

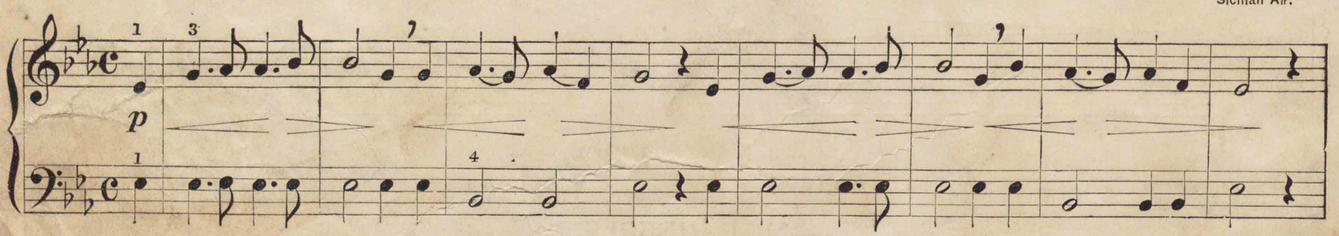
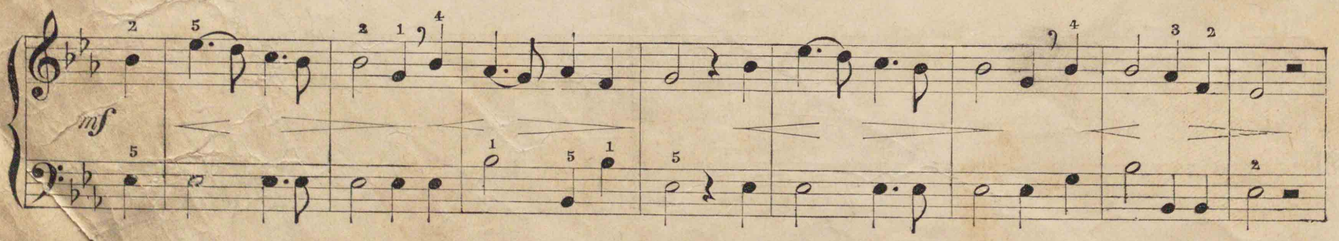


變 ほ 調 長 音 階



30. HOME, SWEET HOME.

(樂しき家庭) (中等唱歌集　埴生の宿)

Moderato.

Sicilian Air.